

平成30年9月定例会（事前）
経済委員会資料 資料3
農林水産部

平成29年度 徳島県農林水産基本計画レポート



平成30年9月
徳島県農林水産部

目 次

基本戦略Ⅰ 人を『育む』—次代を担う人材への投資—

- 1 農業の担い手育成及び確保 1
- 2 林業の担い手育成及び確保 4
- 3 水産業の担い手育成及び確保 6

基本戦略Ⅱ 生産を『増やす』—市場ニーズや地域特性に応じた生産振興—

- 1 水田農業の振興 8
- 2 園芸農業の振興10
- 3 畜産業の振興13
- 4 林業及び木材産業の振興15
- 5 水産業の振興18
- 6 オープンイノベーションの加速21
- 7 安全・安心な食料の安定的供給24
- 8 食育・地産地消の推進27

基本戦略Ⅲ マーケットを『拓く』—需要拡大に向けた販売力強化—

- 1 挑戦するとくしまブランドの展開29
- 2 6次産業化の促進31
- 3 海外展開の促進33

基本戦略Ⅳ 生産を『支える』—強靱な生産基盤の整備—

- 1 農業生産基盤の整備及び保全36
- 2 林業生産基盤の整備及び保全38
- 3 漁業生産基盤の整備及び保全41
- 4 南海トラフ・直下型地震への対応43
- 5 自然災害等への対応45

基本戦略Ⅴ 地域を『守る』—活力と魅力にあふれた農山漁村の創出—

- 1 多様な主体による協働活動と農林水産業への参画47
- 2 都市農村交流と移住・定住の促進49
- 3 中山間地域等への支援51
- 4 鳥獣による被害の防止53
- 5 地球環境の保全への貢献55
- 6 地球温暖化への対応57

1 農業の担い手育成及び確保

【主な取組】

(1) 農業大学校における新たな人材の育成・確保（経営推進課）

入学者の確保に向け、高校生を対象に「オープンキャンパス（緑の学園）」や、農大生と農業青年等との交流会の開催、食品加工講座の開設、模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」による商品開発を行うとともに、徳島大学と農林水産総合技術支援センターを核としたアグリサイエンスゾーンにおいて、民間事業者とも連携し、ICTを活用した高度環境制御技術を用いた次世代型農業や6次産業化への取組みなど、実践力の高い農業人材の育成・確保に取り組んだ

また、農業大学校・大学へと連なるキャリアアップシステムの充実により、2名の学生が4年生大学へ編入学した。

さらに、平成30年3月には、県、株式会社キョーエイ、農業大学校生による模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」の3者で「農業人材育成に関する協定」を締結し、農産物の流通販売に関する取組みなどを通じて、農業経営の実践学習による経営力の高い人材育成に取り組んだ。

(2) 農業系大学生等によるインターンシップの推進（経営推進課）

先進農家や農業法人等の現場に、県内外の農業系学生（176名：5大学，3高校）を「インターンシップ」として受け入れ、本県農業への理解を深め、将来の就農を促進した。

(3) 農業次世代人材投資資金の活用（経営推進課）

独立・自営就農を目指す若者に対し、「農業次世代人材投資資金」により、就農前の研修期間の生活安定や就農直後の経営確立に資する資金支援を行い、就農と定着を促進した。

(4) 就農希望者や新規就農者への支援（経営推進課）

本県農業の魅力を発信するため、就農希望者に対する情報提供や、農業現場を体感できる見学ツアーを実施するとともに、短期間の実践的農業技術研修を実施する農業法人等に対し、研修に要する費用を支援し、就農支援を行った。

また、新規就農者の定着を図るため、地域で優れた農業経営を実践している「指導農業士」等をチューター（指導者）として、栽培技術や経営面の疑問等にマンツーマンで対応する取組を実施した。

(5) 経営感覚に優れた農業人材の育成（経営推進課）

農業生産技術に加え、法人化や6次産業化にも対応できる農業人材を育成するため、農業大学校の研修課程である「アグリビジネススクール」において、経営感覚に優れた農業人材の育成に取り組んだ。

なお、「アグリビジネススクール」の6次産業化講座を受講した6名が、国が定める認定機関の審査を経て、「食の6次産業化プロデューサー」の認定を受けた。

また、実践力の高い6次産業化人材を育成するため、農業者や事業者の自らのアイデアを具現化する試作の場として、オープンラボ機能を備えた「六次産業化研究施設」を整備した。（平成30年3月竣工，同5月開設）

(6) 女性農業者，障がい者等就労の活動支援（経営推進課）

女性農業者のスキルアップを図るため、農業生産技術や経営・加工技術向上などに関する研修会や交流会等を開催するとともに、「地域活性化」や6次産業化など「新しいビジネス」へのチャレンジを支援した。

また、多様な担い手の確保を図るため、ほうれんそう産地における収穫・調整作業などの労力補完の取組みについて、障がい者をはじめとする幅広い人材の活用に向けた農福連携の推進を図った。

(7) 担い手対策（畜産振興課）

本県の畜産を支える担い手に対し、家畜人工授精師講習会を開催するなど、地域の畜産技術者として育成した。

【参考】

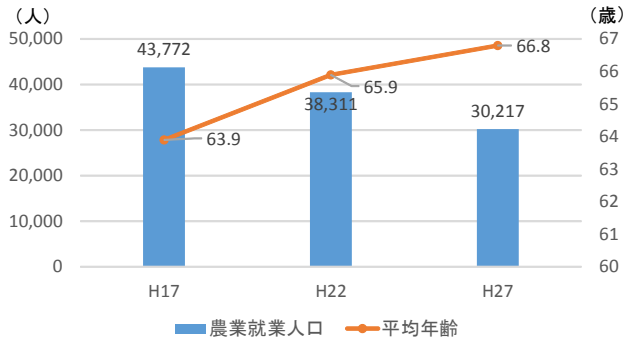


インターンシップ



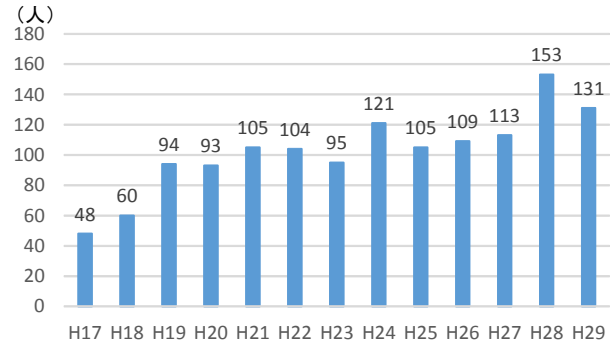
若手女性農業者研修会（美波町）

農業就業人口と平均年齢



出典：農林水産省「農林業センサス」

農業新規就農者数



出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|---|-----|-----------|-----------|-----------|
| 新規就農者数 (累計) | 人 | 327 | 1,330 | 611 |
| 中核的農林漁業者育成数 (累計) | 人 | 358 | 720 | 523 |
| 「人・農地プラン」に新たに位置付けられる「地域の中心となる経営体数」 (累計) | 経営体 | 204 | 1,050 | 483 |
| 農業系大学生等によるインターンシップ参加者数 (累計) | 人 | 152 | 775 | 452 |
| アグリビジネススクールの入学者数 (累計) | 人 | 99 | 250 | 146 |
| 「食Pro.」の育成人数 | 人 | 10 | 60 | 24 |
| 農業大学校における資格取得件数 (累計) | 件 | 213 | 420 | 345 |
| インターンシップ受入登録業者数 | 箇所 | 36 | 90 | 81 |
| 他産業からの農業への参入数 (累計) | 組織 | 25 | 33 | 30 |
| 農業法人数 | 経営体 | 230 | 255 | 291 |
| サイエンスゾーンにおける大学・民間事業者の参入者数 | 者 | - | 5 | 2 |
| 就農研修への参加者数 | 人 | 創設 | 160 | 163 |
| 労働力確保マッチング件数 | 件 | 154 | 200 | 167 |
| 女性農業リーダーの割合 | % | 8 | 15 | 11.4 |
| 「若手女性農業者フォーラム」開催件数 | 回 | 22 | 35 | 27 |
| 農業女子による新たなビジネスプラン作成数 (累計) | 件 | 10 | 30 | 18 |
| モデル集落営農組織数 | 組織 | - | 10 | 7 |

2 林業の担い手育成及び確保

【主な取組】

(1) 人材の養成対策（林業戦略課，新次元プロジェクト推進室）

① 新規参入者の育成・確保

将来の本県林業を支える若手就業者の育成・確保を図るため，現場で即戦力となる人材を育成する「とくしま林業アカデミー」を平成28年4月に開講し，徳島大学，鳴門教育大学，県建築士会，徳島森林づくり推進機構，県等で構成するフォレストサイエンスゾーンの人的・物的資源を活用した1年間の研修を実施し，一期生11名，二期生13名は，全員，県内の林業事業体に就職した。

また「森林女子就業推進モデル事業」では男女を問わず労働環境の改善と新規参入の増加を図るため，モデル的に働きやすい環境づくりを進めるとともに，女性進出のきっかけとなるよう体験会を実施した。（H30：2名アカデミー入学）

さらに，「とくしま林業アカデミー」をはじめとする林業の担い手や，木造建築の人材等を育成する「林業人材育成棟」の整備を行った。

（平成30年3月竣工，同4月開設）

また，学生や就業希望者の実習・体験フィールドであり，既存就業者のキャリアアップの場となる林業体験林「フォレストキャンパス」を県有林内に設置した。

② 林業従事者のキャリアアップ

林業における各種作業に必要な資格等の取得をはじめ，高度な伐採技術や作業道の開設技術，高性能林業機械の操作，経営管理や安全管理など，ステップアップ方式による人材育成研修を実施し，安全研修など一定の技術研修を受講・修了した18名を新たに「林業プロフェッショナル」として養成した。

(2) 林業事業体の育成・強化（新次元プロジェクト推進室）

① 「事業体登録制度」の運用

県内林業事業体の活動状況を把握するとともに，経営感覚に優れた力強い林業事業体を育成するため，

- ・従業者3人以上で，労働基準法に基づく規則等を整備した事業体を「登録林業事業体」
- ・従業者5人以上で，県が「経営合理化計画」を認定した事業体を「認定林業事業体」

として，それぞれ登録・認定する「事業体登録制度」を運用している。

② 事業体への起業化促進

林業への新規就業希望者や他産業からの参入希望者の就業・定着並びに既存就業者の独立や起業を促進するため，「林業機械サポートセンター」を活用し，高額な高性能林業機械のリース支援を行った。

【参考】

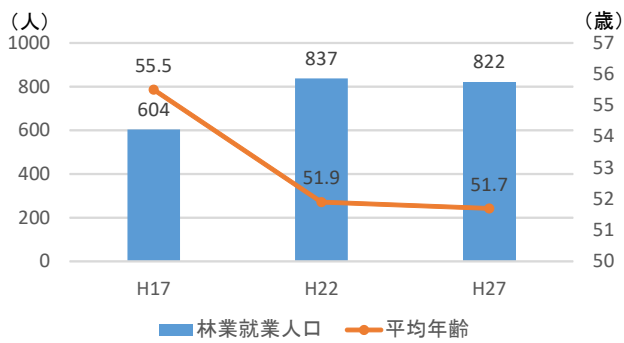


フォレストキャンパスでの座学研修

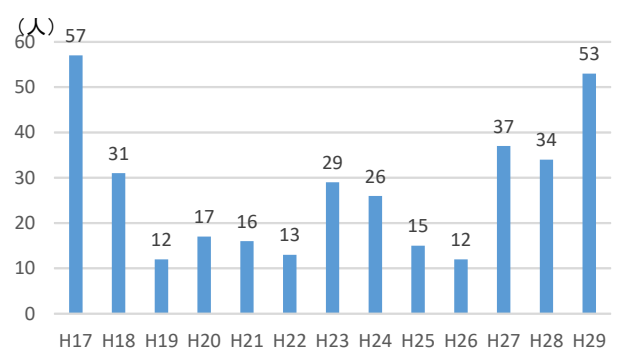


とくしま林業アカデミー

林業就業人口と平均年齢



新規林業就業者数



出典：総務省「国勢調査」
農林水産省「農林業センサス」

出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-----------------------------|-----|-----------|-----------|-----------|
| 新規林業就業者数 (累計) | 人 | 64 | 240 | 151 |
| 「とくしま林業アカデミー」の修了者数 (累計) | 人 | - | 70 | 24 |
| 大学等の体験林「フォレストキャンパス」の創設 (累計) | 箇所 | 2 | 5 | 4 |
| 林業プロフェッショナル数 (累計) | 人 | 261 | 370 | 311 |
| 林業事業者登録数 | 事業者 | 64 | 68 | 66 |

3 水産業の担い手育成及び確保

【主な取組】

(1) 漁業の担い手育成及び確保（水産振興課）

誰もが徳島の漁業を学べる「とくしま漁業アカデミー」を開講し、徳島大学、阿南高専、県で構成するマリンサイエンスゾーンの人的資源、物的資源を活用しつつ、浜を支える意欲ある担い手の育成・確保に取り組んだ。

また、漁業に興味を持つ県外の移住希望者等を対象とした就業相談窓口として、東京と徳島に開設した「とくしま漁業就業マッチングセンター」を活用し、就業希望者と漁協のマッチングを推進した。

さらに、「漁業人材育成プログラム」の実施により、漁業技術のみならず、経営能力の養成を行い、「自立できる若い漁業者」や「時代の潮流に対応できる経営感覚に優れた漁業者」を育成した。

(2) 新規漁業就業者の定着支援（水産振興課）

新規就業者の確保に向けた本県独自の取組として、経営が不安定な就業後5年以内の漁業者等を支援する漁協の取組について助成した。

【参考】

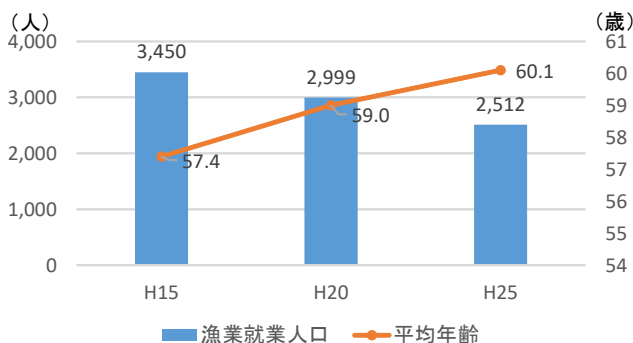


漁業座学研修



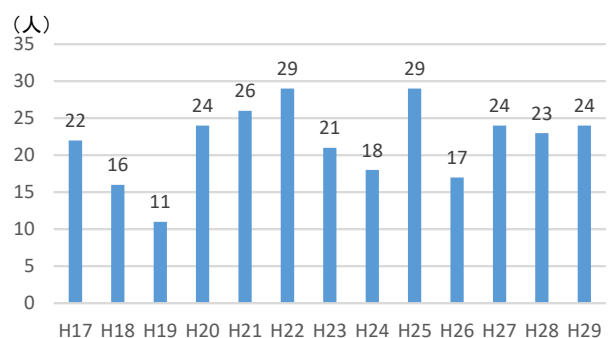
漁業現場研修

漁業就業人口と平均年齢



出典：農林水産省「漁業センサス」

新規漁業就業者数



出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-------------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 新規漁業就業者数（累計） | 人 | 237 | 360 | 284 |
| 青年漁業者等就業支援事業の就業定着支援者数（累計） | 人 | 14 | 90 | 39 |
| 「漁業人材育成プログラム」に基づく研修等の受講者数（累計） | 人 | 972 | 2,400 | 1,563 |
| 漁業体験者数（累計） | 人 | 30 | 180 | 98 |
| 「とくしま漁業アカデミー」の修了者数（累計） | 人 | - | 20 | 7 |

1 水田農業の振興

【主な取組】

(1) 活力ある多様な水田農業の推進（経営推進課）

① 経営安定所得対策の着実な推進

経営所得安定対策に取り組む市町村及び地域協議会に対して、需給調整のための生産目安のシュミレーションを行うシステムの開発や直接支払制度の推進に必要な経費及び、支払対象となる品目の作付確認等を行う経費を助成した。

② 持続可能な水田農業の推進

水田の有効活用を図るため、野菜や果樹、畑作物の作付けなどの取組を支援するとともに、米の需給バランスを確保するため、「飼料用米・WCS（ホールクロップサイレージ）推進プロジェクトチーム」による多収品種の導入や耕畜連携による地域内流通の促進、飼料用米等を給与した畜産物のブランド化を促進するなど、飼料用米の定着を図った。

また、担い手の経営規模拡大を促進するため、「農地中間管理事業」を活用し、担い手への農地集積を推進するとともに、ICTを活用し、省力化・低コスト化を図る「スマート農業」による大規模経営のための技術マニュアルを作成した。

③ 売れる米づくりの推進

主食用米の高温耐性品種「あきさかり」の本格的導入を進め、品質向上を図るとともに、県産米の魅力発信など、売れる米づくりを推進した。

④ 米の新たな需要の創出

県産米の需要拡大に向け、輸出用米の作付け推進と併せてアジアを中心とした国外における県産米のプロモーション活動を展開した。

また、米粉を使ったパンやお菓子などの料理講習会の開催や、「米ゲル」を使用した商品開発を支援する一方、県内酒造業者との連携による酒米産地の育成や、地酒ブランド「阿波十割」の消費拡大を支援するなど、県産米の需要促進に取り組んだ。

(2) 担い手への農地集積（経営推進課）

「農地中間管理機構」等を活用し、大規模経営を指向する法人や認定農業者などの担い手への農地集積を促進するとともに、啓発活動の強化や、農村の維持保全に取り組むモデル集落の育成を行うなど、耕作放棄地の発生防止及び解消を推進した。

【参考】

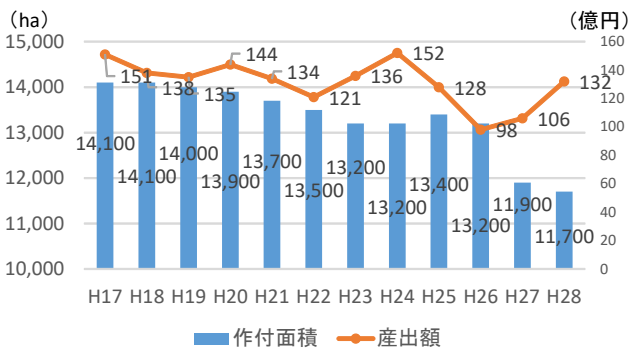


徳島県奨励品種に認定「あきさかり」

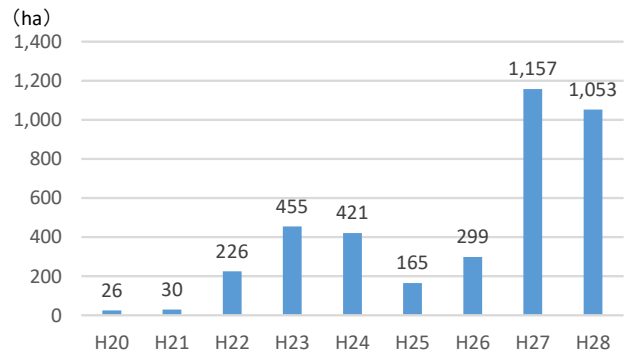


県産酒米使用地酒ブランド「阿波十割」

作付面積・算出額（米）



飼料用米及び飼料用稲の作付面積の推移



出典：農林水産省「作物統計調査」
農林水産省「生産農業所得統計」

出典：農林水産省「作物統計調査」
農林水産省「生産農業所得統計」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-------------------|----|-----------|-----------|-----------|
| 飼料用米の作付面積 | ha | 988 | 1,600 | 729 |
| 水稻新品種（高温耐性）の栽培面積 | ha | 23 | 1,000 | 474 |
| 県産米輸出数量 | t | 60 | 80 | 79 |
| 県産酒米を使用した地酒のブランド化 | 件 | - | 30 | 25 |
| 米粉の需要拡大 | t | 68 | 100 | 69 |

2 園芸農業の振興

【主な取組】

(1) 野菜・果樹の経営安定対策（もうかるブランド推進課）

対象となる野菜の価格が著しく低下した場合に、生産者に価格差補給金等を交付することにより、価格の低下が経営に及ぼす影響を緩和するとともに、野菜の安定出荷を図った。

(2) 野菜増産の推進（もうかるブランド推進課，経営推進課）

県産野菜の供給力向上のため、県内各地で増産を進める「野菜増産プロジェクトチーム」を中心に、野菜の増産に努めるとともに、産地のリノベーションに向けて、生産・流通・販売における課題解決に努め、生産力の強化を図った。

また、「だいこん」や「枝豆」の共同選果施設や、海部郡の「きゅうりタウン構想」の実現に向けた次世代園芸実験ハウスの整備を進めるなど、ハード整備により、産地における生産性の向上に努めた。

さらには、実需者ニーズに応じた、産地づくりを推進することにより、販売力強化を図った。

(3) 徳島の花き産地強化対策（もうかるブランド推進課）

展示品評会などの実施を通じて、市場をはじめとする実需者及び消費者に対する本県の花き産地の認知度向上に努め、産地の強化を推進した。

(4) 持続的生産技術（手入れ砂代替技術）の導入（もうかるブランド推進課）

「なると金時」「だいこん」など、本県砂地畑園芸に欠かすことのできない「手入れ砂」として、「川砂」の安定供給体制の構築に取り組むとともに、農協と連携した営農指導や担当者会議の開催などを通じて、「手入れ砂」を活用した生産振興に努めた。

【参考】

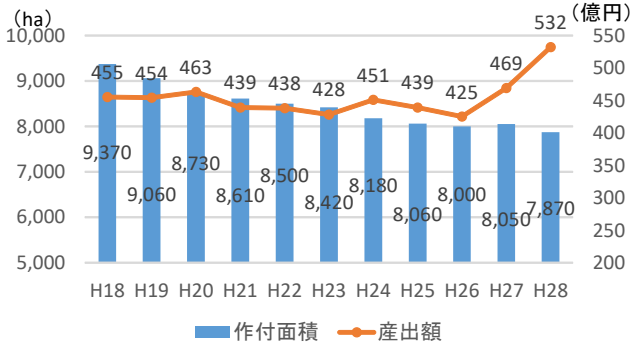


大根の洗浄から等級選別までの工程を自動で行う共同選別施設（JA大津松茂）

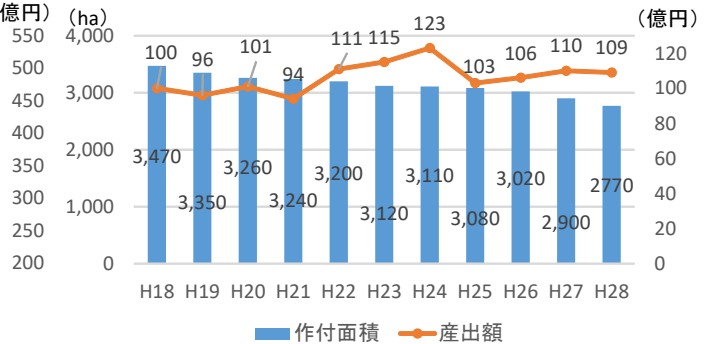


枝豆の選別，袋詰め作業など生産者労力を低減する共同選別施設（JA徳島市）

作付面積・産出額（野菜）



栽培面積・産出額（果樹）

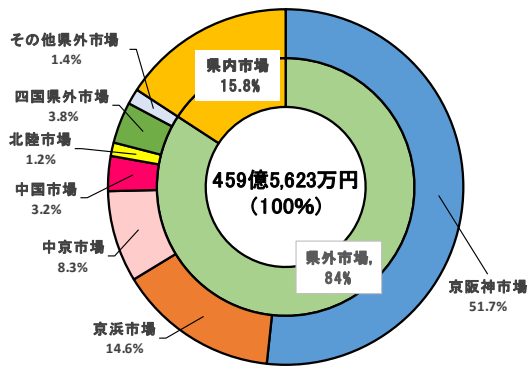


出典：農林水産省「野菜生産出荷統計」
農林水産省「生産農業所得統計」

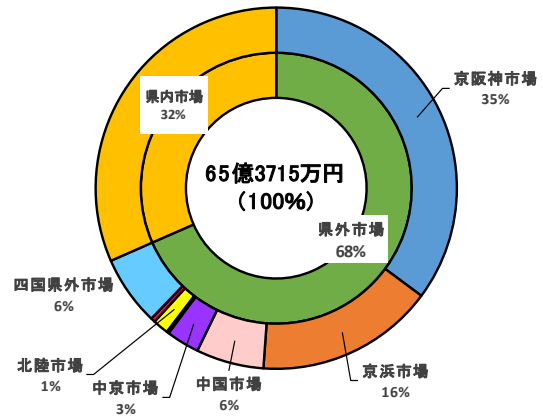
出典：農林水産省「果樹生産出荷統計」
農林水産省「生産農業所得統計」

青果物販売動向（平成28年度）

(1) 野菜類販売金額



(2) 果実類販売金額



【野菜】うめ、いちご、すいか、メロン類、きのこ類を含む

【果実】ゆず、すだち、ゆこうを含む

出典：対象卸売市場「市場年報」

徳島県産の入荷量占有率20%以上の品目（平成28年大阪中央卸売市場）

(単位：百万円)

| | すだち | れんこん | 生しいたけ | なのはな | カリフラワー | ゆず | かんしょ | かぶ | ブロッコリー | 青ねぎ | 洗いらっきよ | えだまめ |
|---------|------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 販売金額占有率 | 99.7% | 83.9% | 72.4% | 71.2% | 61.3% | 58.2% | 46.1% | 30.9% | 27.1% | 26.6% | 43.3% | 23.7% |
| 第1位 | 都道府県・国 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 徳島 | 鳥取 | 岐阜 |
| 金額 | 318 | 1,327 | 2,856 | 257 | 119 | 103 | 1,443 | 99 | 917 | 415 | 115 | 296 |
| 第2位 | 都道府県・国 高知 | 茨城 | 岐阜 | 兵庫 | 長野 | 高知 | 茨城 | 福岡 | 長野 | 香川 | 徳島 | 徳島 |
| 金額 | 1 | 118 | 200 | 41 | 50 | 41 | 664 | 53 | 506 | 371 | 100 | 266 |
| 第3位 | 都道府県・国 和歌山 | 佐賀 | 長崎 | 和歌山 | 大阪 | 愛媛 | 宮崎 | 青森 | 北海道 | 三重 | 高知 | 秋田 |
| 金額 | 0 | 97 | 192 | 35 | 7 | 25 | 399 | 51 | 390 | 230 | 15 | 108 |

出典：大阪市中央卸売市場，大阪府中央卸売市場「市場年報」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|----------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 構造改革を実施した園芸産地における生産額 | 億円 | 34 | 115 | - |
| 課題解決戦略推進品目数 | 品目 | - | 12 | 2 |
| 藍の作付け面積拡大（累計） | ha | 16 | 25 | 16 |

3 畜産業の振興

【主な取組】

(1) 畜産ブランドの競争力強化（畜産振興課）

本県畜産物のリーディングブランドである「阿波尾鶏」の輸出拡大、「ハラール牛肉」の輸出など、県産畜産物の海外展開に取り組み、畜産ブランドの競争力強化を図った。

(2) 家畜改良対策（畜産振興課）

畜産研究課で雌選別精液を用いた高能力乳牛受精卵の作出を行うことにより、酪農家への受精卵供給体制を強化した。

(3) 安全・安心な畜産物の提供（畜産振興課）

「農場HACCP」の推進農場として指定を受けた肉用牛の生産農場を「四国初」の認証取得農場に導くとともに、東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供や販路拡大を見据えた、安全で安心な県産畜産物を提供するための「畜産GAP」、「農場HACCP」の認証取得に向けた指導を継続するなど、啓発・支援に取り組んだ。

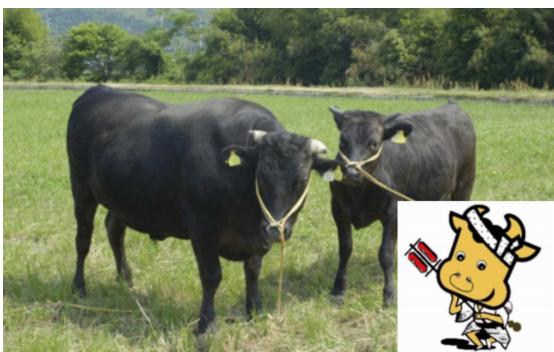
(4) 畜産経営環境保全の推進（畜産振興課）

規模拡大等を図ろうとする意欲のある畜産農家に対し、堆肥化处理に係る堆肥調整機械・施設の導入整備等を支援するとともに、畜産経営における環境対策について総合的な指導を行い、畜産環境問題の発生防止に取り組んだ。

(5) 担い手対策（畜産振興課）

I-1を参照

【参考】



阿波牛

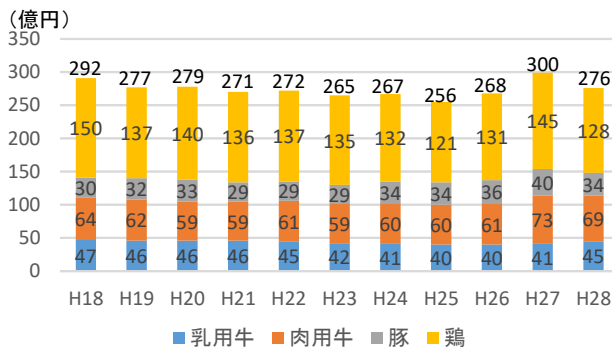


阿波尾鶏

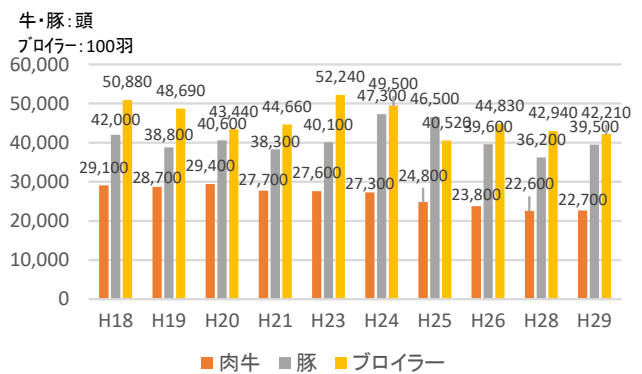


阿波とん豚

産出額（畜産）



飼養頭羽数（畜産）



出典：農林水産省「生産農業所得統計」

出典：農林水産省「畜産統計調査」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-----------------------------|-----|-----------|-----------|-----------|
| 経営転換モデル数（累計） | モデル | 2 | 12 | 6 |
| 「阿波尾鶏」出荷羽数 | 万羽 | 209 | 300 | 207 |
| 「阿波とん豚」出荷頭数 | 頭 | 236 | 1,800 | 510 |
| 「阿波牛」出荷頭数 | 頭 | 2,702 | 2,950 | 2,855 |
| 平時・災害時リバーシブル活用「阿波尾鶏」加工品（累計） | 商品 | 4 | 12 | 8 |
| 畜産プレミアムブランド（累計） | 件 | 2 | 7 | 4 |
| JAS等取得件数（累計） | 件 | 4 | 6 | 6 |
| 飼料作物増産による飼料自給率の向上 | % | 15 | 16 | 15 |
| 飼料用米・飼料用稲利用畜産農家数 | 軒 | 62 | 67 | 67 |
| 乳用牛群検定への農家加入率 | % | 24 | 30 | 24 |

4 林業及び木材産業の振興

【主な取組】

(1) 新次元林業プロジェクトの展開（新次元プロジェクト推進室）

県産材の更なる増産と利用の拡大を図るため、平成36年度の「県産材生産量」をこれまでの林業プロジェクト開始前（平成16年度）の約4倍増となる60万立方メートルを戦略目標とする「新次元林業プロジェクト」に取り組んだ。

① 県産材の増産対策

生産性の向上と県産材の増産を推進するため、高性能林業機械の導入（累計63セット）や路網の整備を進め、木材生産コストの低減を図るとともに、本県の急峻な地形に対応した「主伐生産システム」の構築や、林業事業体の起業・独立を支援する「林業機械サポートセンター」におけるリース事業を展開した。

② 木材の流通加工対策

木材の加工規模を拡大するとともに、高度な加工技術の定着を図るため、製材加工施設等の整備に対する支援を行った。

また、需要が旺盛な木質バイオマス発電所向けの燃料用材をはじめとする木質バイオマス利用の拡大に向けて供給体制整備の支援を行った。

③ 木材の利用推進対策

県産材の需要拡大のため、県内のモデル的な施設の木造化や木質内装化に対して支援するとともに、住宅に県産材を利用する県外の工務店や建築士を「徳島すぎの家」協力店に認定した（累計37店）。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向け、大都市圏への県産材の需要開拓を行い、「選手村ビレッジプラザ」への県産材利用が決定した。

さらに、「県産材輸出サポートセンター」を通じて約2,800立方メートルの原木・製品を輸出したほか、「県産材木造住宅まるごと輸出」の拠点である台湾と韓国、シンガポールに設置したショールームを活用し、県産材のPRを行った。

④ 木材利用の啓発

「徳島県県産材利用促進条例」に基づき、県民総ぐるみでの県産材利用の意義や木材に対する親しみ、木の文化への理解を深めるため、「木育」の拠点となる「すぎの子木育広場」や県産木造住宅の建築相談等を行う「とくしま木づかいプラザ」を活用し、木材利用の普及に取り組んだ。

【参考】

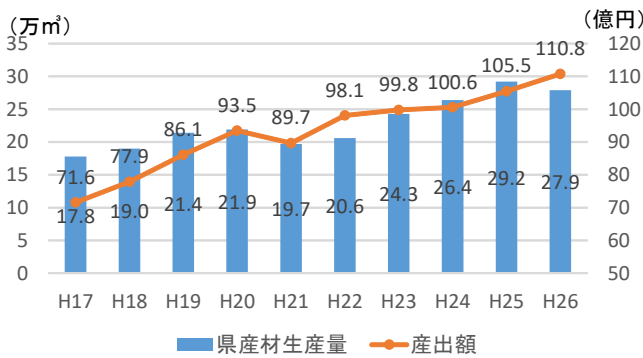


高性能林業機械



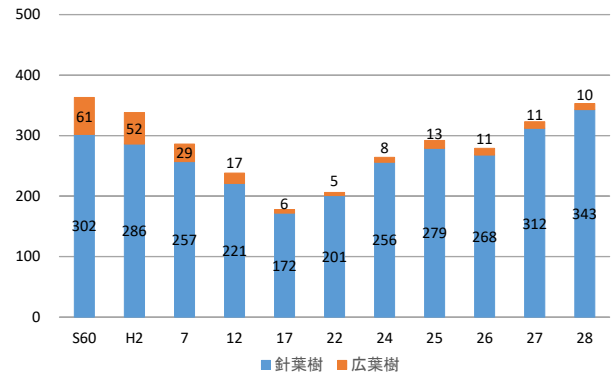
すぎの子木育広場「もっく」

県産材生産量・産出額（林業）



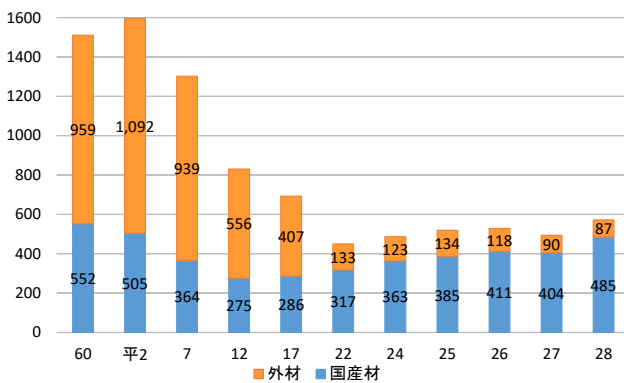
出典：農林水産省「木材統計調査」
農林水産省「生産林業所得統計」

素材生産量の推移（県内）



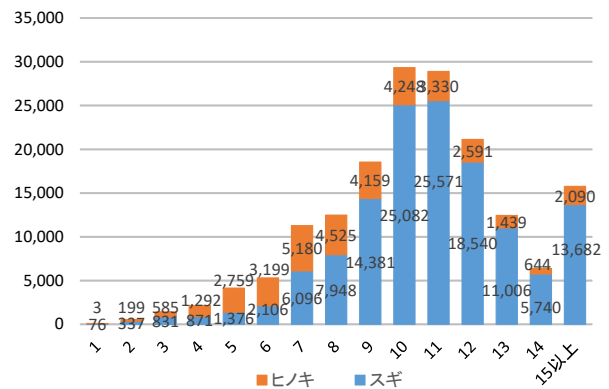
出典：徳島県「平成29年度みどりの要覧」

木材消費量の推移（県内）



出典：徳島県「平成29年度みどりの要覧」

スギ・ヒノキ人工林齢級構成
（計画対象民有林）



出典：徳島県「平成29年度みどりの要覧」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--------------------------|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| 県産材の生産量 | 万m ² | 32.4 | 48 | 37.5 |
| 新林業生産システム（先進林業機械）導入数（累計） | セット | 54 | 70 | 63 |
| 人工造林面積 | ha | 146 | 300 | 190 |
| 木質バイオマスの供給量 | 千 t | 52 | 149 | 136 |
| 木質バイオマスによる発電量 | kw | - | 6,250 | 6,470 |
| 公共事業での県産木材使用量 | 千m ³ | 12 | 24 | 11 |
| 県内の民間部門における県産木材消費量 | 千m ³ | 90 | 130 | 128 |
| 木育拠点「すぎの子木育広場」の創設（累計） | 箇所 | 5 | 20 | 15 |
| 製材工場1工場当たり県産材使用量 | m ³ | 1,317 | 2,090 | 1,340 |
| 製材品出荷量に占める人工乾燥材割合 | % | 39 | 44 | 43 |

5 水産業の振興

【主な取組】

(1) 資源管理型漁業の推進（水産振興課）

サワラ資源を回復させるため、漁業者が実施する漁獲努力量削減状況の把握に努めるとともに、国際合意に基づき進められている沿岸クロマグロの漁獲量管理を行った。

また、漁業者が「資源管理計画」を作成及び履行するために必要な指導等を行った。

(2) 栽培漁業の推進（水産振興課）

県有種苗生産施設で生産したアワビ、クルマエビ及びアユ種苗等の放流により、水産資源の維持及び増大を図るとともに、効果的な放流技術の開発並びに漁業者への普及及び指導を行った。

また、漁協や関係市町の広域的な連携のもと策定された「浜の活力再生広域プラン」に基づく「アミノ酸入りコンクリートプレート」を用いたアワビ漁場の造成について支援を行った。

(3) 内水面漁業・養殖業の振興（水産振興課）

① 内水面漁業

河川における重要漁業対象種であるアユ、ウナギ資源の維持及び増大を図るため、種苗放流や採捕規制を行うとともに、カワウによる食害防止対策のため、漁業者が実施する追い払いやテグス張りなどを支援した。

② 養殖業

漁場環境の保全と漁業被害の防止を図るため、漁場環境の監視、赤潮・貝毒等に係る有害・有毒プランクトンなどの情報を提供した。

また、海藻養殖業の色落ち対策として、漁場の栄養塩情報を発信するとともに、下水処理施設における「栄養塩管理運転」の実証実験を行った。

(4) 水産物生産・消費拡大対策（水産振興課）

① 水産物の消費拡大対策の推進

「徳島の活いき鱧ブランド確立対策協議会」と連携し、「徳島の活いき鱧料理味わいキャンペーン」や「日本三大はも祭（祇園祭，天神祭，阿波おどり）」におけるPRを展開した。

また、首都圏における「県産はも」の消費拡大に取り組むとともに、「機能性成分の分析」や「品質向上・増産のための新たな漁具開発」に取り組むなど、「はも」をはじめとする県産水産物の認知度向上を推進した。

② 鳴門わかめ認証制度の普及促進

「鳴門わかめ」に対する消費者の信頼を高めるため、「適正な食品表示」、「加工履歴管理」を行う加工業者の認定を行うとともに、認定事業者の商品に「認証マーク」を表示することを可能とする「徳島県鳴門わかめ認証制度」の推進を図った。

また、認証制度の普及を図るため、消費者に対する制度の周知と鳴門わかめのPRを一体的に行うキャンペーンを展開した。

(5) 「海の野菜ブランド化」(経営推進課)

鳴門わかめの安定生産のため、水産研究課が開発した養殖漁場の高水温化に適応した新品種と種苗生産技術を普及するなど、「海の野菜」のブランド化を推進した。

(6) 藻場造成や浮魚礁設置による漁場整備の推進(生産基盤課)

① 藻場の造成

沿岸域の漁業資源を維持及び増大させるため、産卵場や幼稚魚の育成場として重要な役割を果たす藻場の造成を、海部地域2地区で実施した。

② 浮魚礁の設置

カツオ・マグロなど、回遊魚が水面や水中の構造物に集まり、滞留する性質を利用して、効率的に漁獲するため、中層型浮魚礁を設置した。

【参考】

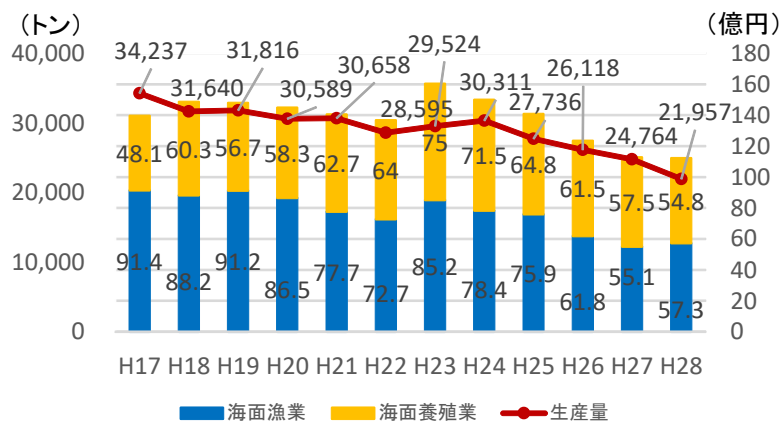


いきはち
徳島の活鰻料理味わいキャンペーン



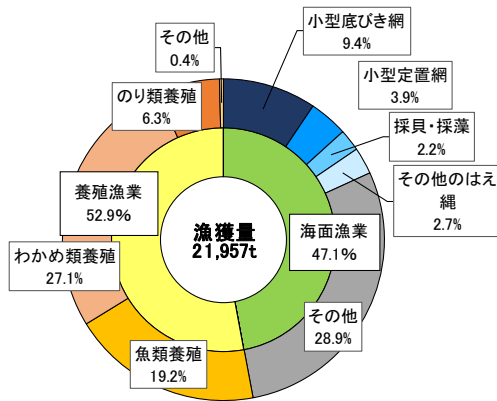
種苗放流

生産量・産出額(漁業)



出展：農林水産省「海面漁業生産統計調査」「漁業産出額」

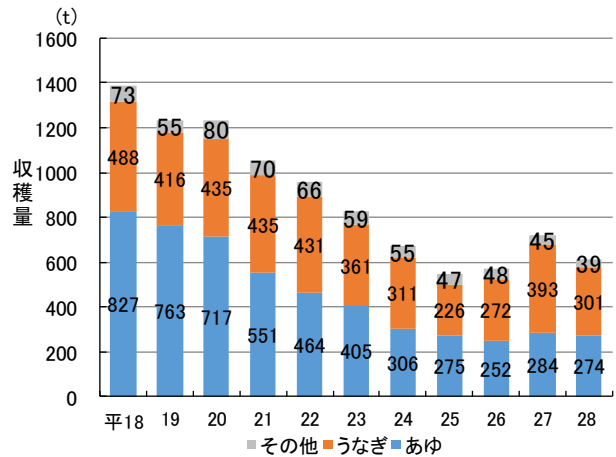
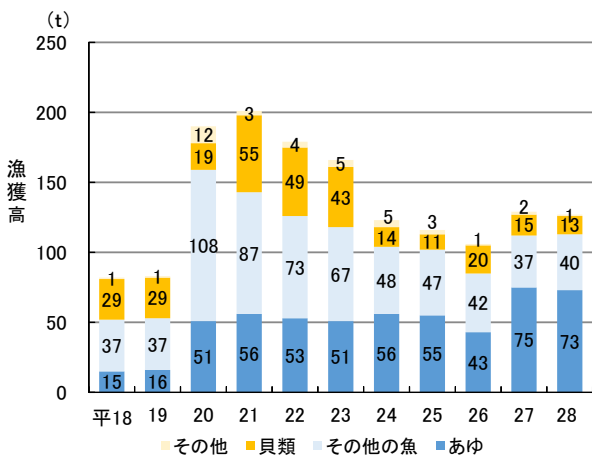
海面漁業・養殖業の漁業種別漁獲量及び収穫量割合（平成28年）



出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」

内水面漁業の生産量（平成28年）

(1) 内水面漁業魚種別漁獲量の推移 (2) 内水面養殖業魚種別収穫量の推移



出典：農林水産省「内水面漁業生産統計調査」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--------------------------|----|-----------|-----------|------------|
| 水産物出荷・流通体制施設等の整備（累計） | 箇所 | 8 | 13 | 11 |
| 生産者（水産業者）と商工業者との連携件数（累計） | 件 | 20 | 28 | 24 |
| ヒラメ種苗放流尾数（累計） | 千尾 | 1,261 | 1,800 | 1,482 |
| アワビ種苗放流個数（累計） | 千個 | 1,360 | 2,400 | 1,818 |
| アワビ生産量 | t | 61 | 100 | - |
| クルマエビ種苗放流尾数（累計） | 万尾 | 12,120 | 23,000 | 16,274 |
| 養殖わかめの生産量 | t | 6,317 | 10,000 | 5000 (概算値) |
| 天然わかめの生産量 | t | 29 | 300 | 85 |
| 中層型浮漁礁の設置（累計） | 基 | - | 4 | 4 |
| 藻場造成箇所数（累計） | 箇所 | 18 | 28 | 21 |

6 オープンイノベーションの加速

【主な取組】

(1) 農林水産3分野のサイエンスゾーンの機能強化（経営推進課）

徳島大学「生物資源産業学部」をはじめとする高等教育機関や産業界との連携強化を図り、「オープンイノベーション」による新技術の開発や、実践力のある人材育成について、一体的に取り組む農林水産3分野の「サイエンスゾーン」の機能強化を図るため、「オープンラボ機能」を備えた6次産業化の拠点となる「六次産業化研究施設」をはじめ、米の多収技術やトマトの環境制御栽培技術の研究を行う施設、飼育環境・防疫管理の強化を図る「ウインドレス鶏舎」、木材生産から木造建築に至る実践力の高い人材育成を行う「林業人材育成棟」、アワビ、イセエビなどの海洋資源の増殖や安定生産に資する「アワビ種苗生産研究施設」、「イセエビ畜養施設」などを新たに整備した。

また、農林水産業の成長産業化を図るため、産学官連携により、AI・IoTなど新技術を活用したスマート農林水産業の研究に着手した。

さらに、「アグリサイエンスゾーン」においては、産学官連携の下、ICTを活用した高度環境制御型園芸ハウスを用いた高収益トマト生産に取り組むため、平成28年5月に県、徳島大学、タキイ種苗株式会社及びTファームいしい株式会社との間で「次世代型農業研究実証事業の実施に関する協定」締結に続き、平成29年5月に、県、徳島大学、石井町、みのる産業株式会社及びみのるファーム株式会社との間で「産学官連携による農業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定」を締結した。平成30年3月には、次世代型大規模園芸施設（約60アール）が完成し、人材育成、研究開発・栽培実証に着手した。

(2) 新技術開発・普及（経営推進課）

① 新技術の開発

「タデ藍」の収穫機械、「なると金時」の非破壊糖度測定システムや「藻類」養殖用の施肥材の開発など生産性の向上やブランド力の強化につながる技術開発を推進した。

② 新技術の普及

県や国等が開発した有望な技術について、研修会や現地における実証展示などを通じて、生産現場における実用化と普及に取り組むとともに、生産現場の様々な課題に迅速かつ的確に対応するため、農林水産総合技術支援センターに設置している「ワンストップ窓口」において、農林漁業者等からの技術的な相談や要望に対応した。

【参考】



農林水産3分野のサイエンスゾーンの形成

■ アグリサイエンスゾーン

徳島大学石井キャンパスと農林水産総合技術支援センターを核とする産学官が連携し、それぞれが持つ強みとアイデアを組み合わせることで、次代を担う人材育成と革新的技術開発を推進する拠点。

■ フォレストサイエンスゾーン

徳島県木材利用創造センター（徳島市南庄町）を核とする産学官が連携し、次代を担う人材育成と研究開発を進め、新たなイノベーションを創出する森林林業・木材利用分野の知と技の集積拠点。

■ マリンサイエンスゾーン

本県水産業の成長産業化及びその関連産業の振興を図るため、水産研究課鳴門庁舎と美波庁舎を核とする産学官が連携し、次代を担う人材育成と研究開発を進め、新たなイノベーションを創出する水産・海洋分野の知と技の集積拠点。



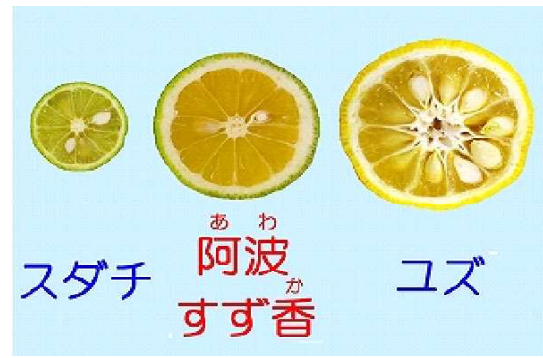
いちご新品種「阿波ほうべに」



れんこん新品種「阿波白秀」



高水温に適応したわかめ新品種



香酸柑橘新品種「阿波すず香」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 大学等によるサテライト研究室の設置 | 箇所 | 1 | 4 | 3 |
| 新技術の開発に向けた県内大学等との共同研究数 | 件 | 8 | 25 | 12 |
| 「徳島発・次世代技術」創造数（累計） | 件 | 50 | 75 | 60 |
| 新品種の開発数（累計） | 件 | 13 | 17 | 14 |
| 農業用アシストスーツ等導入数（累計） | 件 | - | 20 | 9 |
| 「海の野菜」ブランド化の推進 | 件 | - | 2 | 1 |
| 新技術を導入した組織数（累計） | 件 | 277 | 380 | 322 |
| 実用化した技術数 | 件 | 23 | 33 | 27 |

7 安全・安心な食料の安定的供給

【主な取組】

(1) 農産物の安全性の確保（もうかるブランド推進課）

① 「とくしま安²GAP農産物」認証制度の推進

県産農産物の安全性に対する信頼確保や、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「こだわり農産物」の需要の拡大に対応するため、生産者向けのGAP（農業生産工程管理）導入研修会や農業大学校での講義などにより、生産者のGAP取組意識の向上を図るとともに、指導者向けのJGAP指導員基礎研修を開催するなど、「とくしま安²GAP農産物」認証制度の認知度向上を図った。

② 農薬の適正使用の推進

農薬の適正使用や取扱いについて、地域の農業者や生産グループ等に対し適切な指導助言等を行う「農薬適正使用アドバイザー」の認定を推進するとともに、農薬使用者に対する啓発活動を行った。

③ エシカル農産物のPR

環境に配慮した持続可能性の高い農業により生産された「GAP農産物」「エコ農産物」「有機農産物」を「エシカル農産物」と位置づけ、これらの農産物が「エシカル消費」として、消費者に選択して購入していただけるよう、徳島ヴォルティスホームゲームやオーガニックフェスタ等でPRを行った。

④ 県産農林水産物の安全確認

平成29年度までに、米やブランド農林水産物など114品目、2,272検体において放射性物質の検査を実施し、異常がないことを確認した。

(2) 家畜伝染病の発生予防・まん延防止に向けた危機管理体制の強化（畜産振興課）

防疫演習や研修会を通して、県防疫マニュアルに基づく発生時の対応手順を再確認するとともに、初動防疫を速やかに終了するための防疫資材の備蓄や検査機器の整備等、防疫体制の強化を図った。

【参考】



「とくしま安²GAP農産物」認証マーク
（化学農薬・化学肥料50%以上削減）



環境に配慮した農産物等のPRコーナー



徳島県知事認定

エコファーマーマーク

(化学農薬・化学肥料20%以上削減)

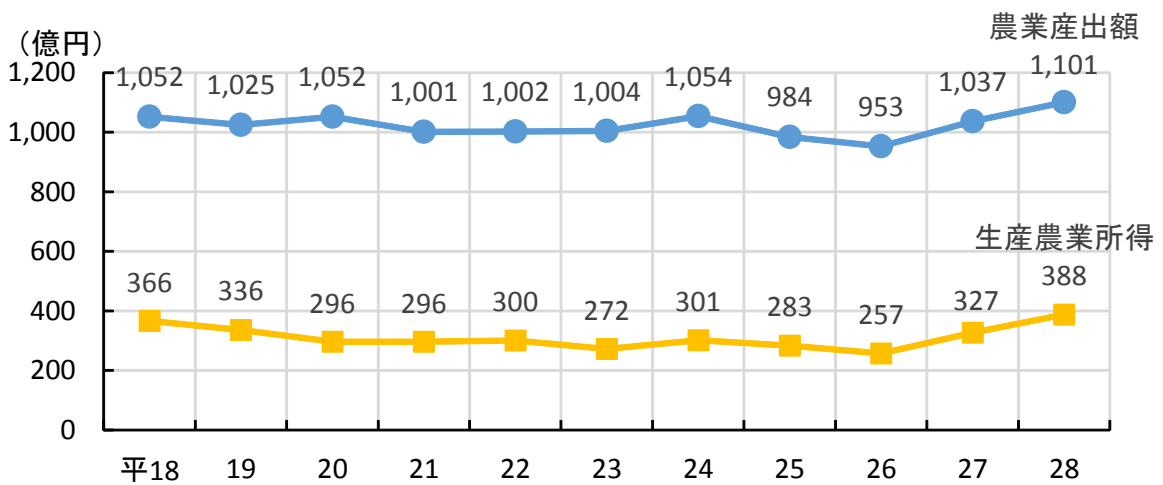


登録認定機関名

有機JASマーク

(原則、化学農薬・化学肥料を不使用)

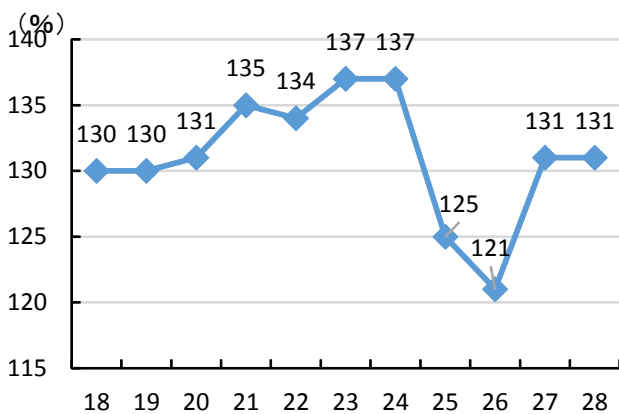
徳島県の農業産出額・生産農業所得



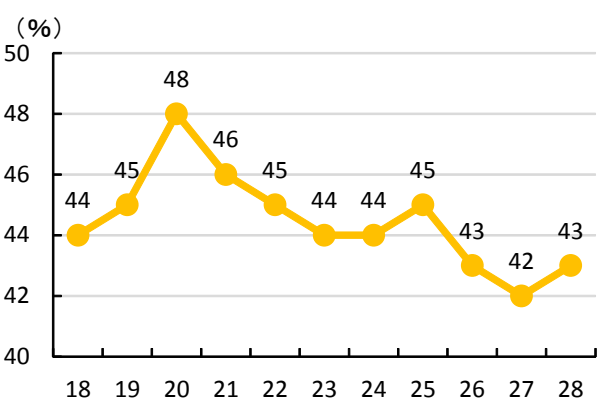
出典：農林水産省「生産農業所得統計」

徳島県の食料自給率

(1) 生産額ベース食料自給率



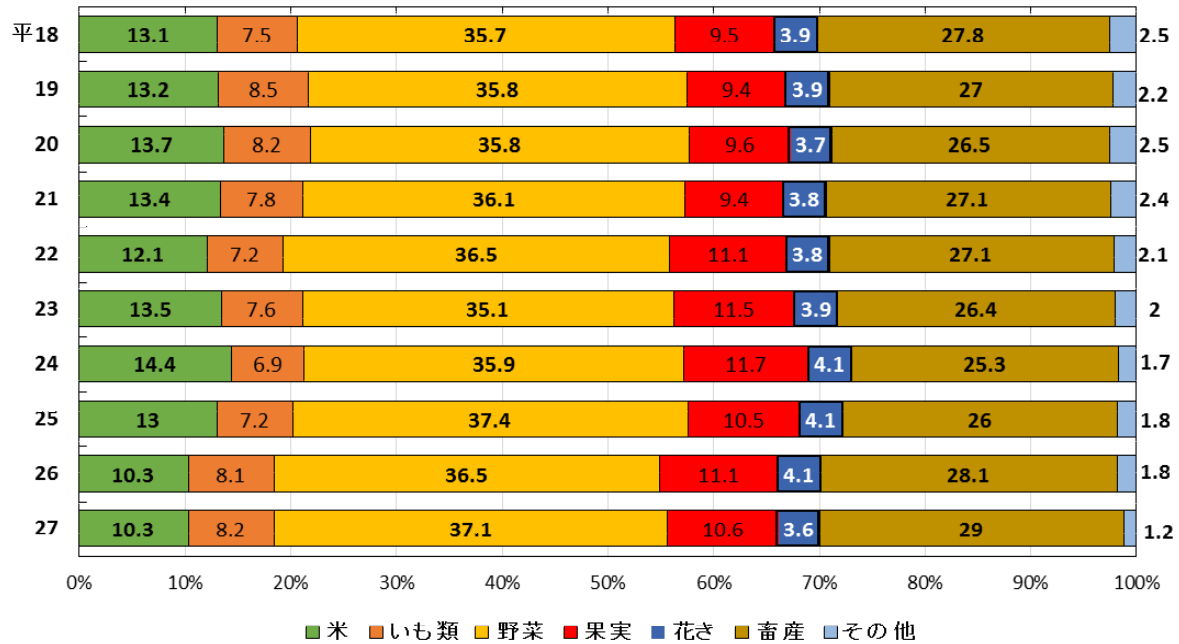
(2) カロリーベース食料自給率



出典：農林水産省「平成28年度都道府県別食料自給率について」

注：平成27年度までは確定値，平成28年度は概算値

徳島県の農業産出額の部門別構成比



出典：農林水産省「生産農業所得統計」

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-----------------------------------|-----|-------------|-----------|-----------|
| 農畜水産物産出額 | 億円 | 1,158 (H26) | 1,135 | - |
| カロリーベースでの食料自給率 (徳島県) | % | 43 (H26) | 45 | - |
| 生産額ベースでの食料自給率 (徳島県) | % | 122 (H26) | 126 | - |
| 農水省GAPガイドライン準拠以上の認証件数 (累計) | 件 | 14 | 50 | 35 |
| GAP認証を取得した若手農業者数 (累計) | 人 | 15 | 80 | 35 |
| 有機・特別栽培面積 | ha | 119 | 180 | 176 |
| 有機農業に関する相談窓口設置市町村数 | 市町村 | 4 | 16 | 10 |
| エコファーマー・マーク利用件数 | 件 | 1,025 | 1,070 | 1,040 |
| IPM実践生産者戸数 (累計) | 戸 | 381 | 600 | 506 |
| 農業適正使用アドバイザー等認定人数 | 人 | 812 | 860 | 808 |
| オープンラボ等を活用した農業者による残留農薬検査数 (分析検体数) | 検体 | 414 | 390 | 402 |
| 本県農林水産物の放射性物質の検査検体数 (累計) | 体 | 1,630 | 2,630 | 2,240 |
| 安定的サーベイランスの実施 (家畜防疫体制) | - | 推進 | 推進 | 推進 |
| 畜産農家の立入検査の実施率 | % | 100 | 100 | 100 |
| 獣医療の提供率 | % | 100 | 100 | 100 |
| 獣医学生のインターンシップ年間受入人数 | 人 | 13 | 12 | 14 |
| 獣医師修学資金の貸与者数 | 人 | 2 | 4 | 3 |
| 家畜排せつ物の再利用率 | % | 100 | 100 | 100 |
| 家畜伝染病発生件数 (高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫) | 件 | 0 | 0 | 0 |
| 家畜伝染病発生に備えた防疫演習・研修会等の実施 | 回 | 11 | 11 | 11 |

8 食育・地産地消の推進

【主な取組】

(1) 「とくしま食育推進協議会」との連携事業（もうかるブランド推進課）

県下で食育推進に関わる団体（栄養士会，消費者協会，PTA連合会等）で構成する「とくしま食育推進協議会」と連携して，「第2回とくしま食育フェスタ」を平成30年2月に開催し，約800名の来場者に「食」の大切さをPRした。

(2) 若手食育リーダーの育成（もうかるブランド推進課）

食に関する講習会や県産食材を使った料理教室を実施するとともに，「野菜たっぷり料理レシピコンクール」を開催し，若者の食育に対する気運を醸成した。

(3) インターネットを通じた情報発信（もうかるブランド推進課）

食育，地産地消推進ホームページ「とくしま食育応援団」において，県下の食育・地産地消イベント情報を発信するとともに，大手料理レシピサイトの県公式アカウント「阿波ふうど☆徳島県」において，県産食材使用レシピを定期的に公開し，徳島の食の魅力を発信した。

【参考】



食育フェスタ



料理教室



平成29年度 野菜たっぷり料理レシピコンクールの表彰式及び最優秀賞作品



【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--------------------------------|----|-----------|-----------|-----------|
| 県民における食育への関心度 | % | 91 | 95 | 84 |
| ジュニア・若手食育リーダー数 | 人 | 63 | 300 | 181 |
| 「とくしま食育応援団」HPへの食育地産地消情報公開数（累計） | 件 | 39 | 250 | 85 |
| 県産食材供給量（学校給食、社員食堂、福祉施設給食等） | 万円 | 2,329 | 2,800 | 2,676 |
| とくしま食巡りの店、働くパパ・ママ食の応援店数 | 店 | 129 | 250 | 146 |
| 「野菜たっぷり料理レシピ」の作成（累計） | 件 | 32 | 90 | 64 |
| 地域食材魅力発信型直売所の整備（累計） | 店 | 2 | 7 | 6 |

1 挑戦するとくしまブランドの展開

【主な取組】

(1) とくしまブランドの展開（もうかるブランド推進課）

① 「とくしまブランド推進機構（地域商社阿波ふうど）」の活動

市場のニーズを的確に分析し、「マーケットイン」の視点に立った販売戦略を立てて、県産農産物の販路拡大を推進した。

② 情報発信と交流の拠点「Turn Table」の開設

首都圏における徳島の「食とライフスタイル」の情報発信と交流の拠点「Turn Table」（とくしまブランドギャラリー）を整備するため、施設のリノベーションを実施、平成30年2月4日にグランドオープンし、本格的な運営をスタートした。

③ 「新型PR車両」の導入に向けた基本構想の策定

機動力と調理能力を発揮した全国プロモーションを担う新型キャンペーン車両の、平成29年度導入に向け基本構想を策定し、平成29年12月末に「でり・ばりキッチン 阿波ふうど号」を導入、平成30年1月13日にお披露目を行い本格運用をスタートした。

④ 「とくしま特選ブランド」の拡大

とくしまブランドを「世界に誇れるトップブランド」に育て上げるため、平成27年度に「とくしま特選ブランド」のリニューアルを行い、これまでに111商品を認定するとともに、県内外のイベントや大型量販店への出展、ふるさと納税返礼品への商品登録により、販売拡大及び認知度向上につなげた。

新しい流通システムへの、取引拡大を通じて、実需者のニーズを生産者に繋ぎ、農家所得の向上に努めた。

(2) 畜産ブランドの競争力強化（畜産振興課）

Ⅱ－3を参照

(3) 水産物生産・消費拡大対策（水産振興課）

Ⅱ－5を参照

【参考】



ほうれんそうの出荷調整機械導入検討



Turn Table



とくしま特選ブランドのPR



特選ブランド
ロゴマーク



鳴門わかめ
認証マーク

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--------------------------|-----|--------------|--------------|--------------|
| 構造改革を実施した園芸産地における生産額【再掲】 | 億円 | 34 | 115 | - |
| 営業活動による商談成立金額 | 億円 | 0.9 | 3 | 1.5 |
| 「とくしまブランド推進機構」の関与した販売金額 | 億円 | - | 30 | - |
| 「とくしまブランドギャラリー」の設置 | - | - | 推進 | 創設 |
| 新タイプのPR車両の導入 | - | - | 推進 | 導入 |
| 国内外メディアへの露出回数 | 回 | 17 | 300 | 58 |
| リーディング品目の認知度 | % | 73 | 80 | 76 |
| 「とくしま特選ブランド」選定数 | 品 | 77 | 100 | 111 |
| 「阿波ふうどスペシャリスト」の認定数 | 者 | 11 | 170 | 175 |
| とくしまブランドギャラリーでの情報発信回数 | 回 | - | 5 | 5 |
| 「阿波尾鶏」出荷羽数【再掲】 | 万羽 | 209 | 300 | 207 |
| 「阿波とん豚」出荷頭数【再掲】 | 頭 | 236 | 1,800 | 510 |
| 「阿波牛」出荷頭数【再掲】 | 頭 | 2,702 | 2,950 | 2,855 |
| 畜産プレミアムブランド（累計）【再掲】 | 件 | 2 | 7 | 4 |
| COC認証取得工場数 | 事業所 | 18 | 30 | 25 |
| 県産材の県外出荷量 | 万m2 | 19.8 | 32.6 | 25.4 |
| 県外における県産材製品の常設展示施設数 | 件 | 4 | 7 | 6 |
| 県産材の海外輸出量 | m3 | 5,979 | 13,500 | 2,825 |
| 県産木材住宅の輸出戸数 | 戸 | 2 | 70 | 9 |
| 「徳島の活鰻PRキャンペーン」応募者数 | 人 | 3,971 | 4,000 | 2,511 |
| デバ地下等での「徳島のさかな」PR回数 | 回 | 5 | 30 | 20 |
| ブランド水産物の消費拡大に向けた協議会の組織数 | 組織 | 4 | 5 | 4 |
| 魚を使った料理教室の開催 | 回 | 21 | 36 | 35 |
| 徳島産はも応援料理店の店舗数 | 店舗 | 8 | 21 | 15 |
| 鳴門わかめ認証制度認定加工業者数 | 事業者 | 16 | 80 | 22 |

2 6次産業化の促進

【主な取組】

(1) 6次産業化のサポート（輸出・六次化推進室）

本県の優れた農林水産物や地域資源を活用し、新しいビジネスの創出を促進するため、「6次産業化サポートセンター」において、農林漁業者からの相談対応、専門家である「6次産業化プランナー」の派遣、農林漁業者と加工・流通事業者等との交流会を開催し、6次産業化の取組のサポートを行った。

(2) 6次産業化人材の育成（輸出・六次化推進室，経営推進課）

県内高校・農業大学校と連携したキャリアアップシステムを構築し、次代を担う6次産業化人材の育成を図るとともに、6次産業化に取り組む事業者等のスキルアップに向け、研修会やセミナーを開催した。また、農業者や事業者の自らのアイデアを具現化する試作の場として、オープンラボ機能を備えた「六次産業化研究施設」を整備した。（平成30年3月竣工，同5月開設）

(3) 商品開発の支援（輸出・六次化推進室）

地域資源を活用した付加価値の高い6次化商品の開発を推進するとともに、首都圏バイヤーによる求評会を開催した。

(4) 販路拡大の支援（輸出・六次化推進室）

6次化商品や県産農林水産物の魅力を発信し、販路開拓につなげるため、首都圏バイヤーを招へいした産地商談会の開催や、首都圏での大規模展示会に「徳島県ブース」を設置し、県内事業者の出展を支援した（4展示会に延べ77事業者が出展）。

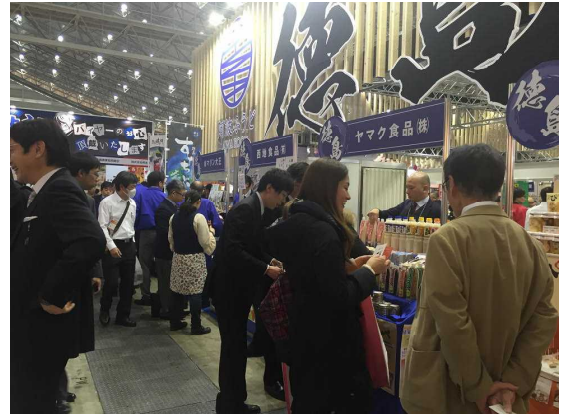
(5) 藍・食藍の推進（輸出・六次化推進室）

「とくしま藍推進月間」を中心に、「藍・食藍体験バスツアー」や「とくしま藍サミット2017」などのイベント等の実施や、首都圏で藍製品の展示販売や藍染め体験などのプロモーションを実施し、藍・食藍の魅力発信に取り組んだ。

【参考】



6次化商品



展示商談会



食藍商品



藍・食藍体験バスツアー



とくしま藍サミット2017



首都圏でのプロモーション

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|----------------------------------|----|-----------|-----------|-----------|
| 農工商連携等による6次産業化商品開発事業数 (累計) | 件 | 209 | 380 | 273 |
| 6次産業化法による「総合化事業計画」認定数 (累計) | 件 | 32 | 53 | 36 |
| 6次産業化法による「総合化事業計画」の売上増加額 (累計) | 億円 | 2.8 | 6.8 | - |
| 戦略的な販路開拓のための展示会・商談会への出展数 (累計) | 出展 | 99 | 150 | 241 |
| 生産者 (水産業者) と商工業者との連携件数 (累計) 【再掲】 | 件 | 20 | 28 | 24 |
| 藍を活用した食品等開発数 (累計) | 件 | 9 | 29 | 18 |
| 6次産業化研究施設の利用者数 (累計) | 人 | - | 1,000 | - |

3 海外展開の促進

【主な取組】

(1) 海外展開の促進（輸出・六次化推進室）

平成25年1月に「とくしま農林水産物等海外輸出戦略」を策定以降、取り組んでいる「攻めの輸出戦略」に、4つの新たな視点を取り入れて、生産者、事業者及び行政が一丸となった輸出の取組を推進した。

① 販売ルートの強化

EUで推進してきた「カンキツ輸出」の更なる拡大を目指し、とくしまブランド海外協力店を「日本人シェフが集うサロン」として活用し、現地ミシュランシェフや量販店バイヤー等と生産者との情報交換やメニューの開発を推進した。

また、「木頭ゆず」が国の地理的表示保護制度（GI）の登録を受け、ブランドの保護と認知度向上を図った。

さらに、スイーツの展示会「サロン・デュ・ショコラ」（フランス）ではスイーツ原料としてカンキツの需要拡大を図るとともに、「ゆず、すだち」に「ゆこう」を加えた「とくしま三大香酸カンキツ」の全面的な打ち出しなど、販売ルートを「より太い幹」へと育てた。

② 新たなマーケットの開拓

本県の強みである「なると金時」については、シンガポール等での新たな販路開拓を実施し、「コメ」については、香港等での販路拡大を進めたことで、両品目とも輸出量が過去最大を更新することができた。

また、年明けに「ドバイ」で開催される中東最大級の見本市「ガルフード2018」にてハラール商品を出展するなど、拡大する「世界の食市場」へ果敢に挑戦した。

③ 物流上の「技術的課題への対応」

農林水産総合技術支援センターとの連携のもと、「なると金時」の品質安定のため、マレーシアへのCAコンテナ輸送による「海上輸送試験」、価格競争力強化のための「現地貯蔵試験」を実施した。EU向けでは引き続き、カンキツ等の「CAコンテナ」による海上輸送試験を実施した。

④ 新たなプレイヤーの発掘と育成

世界市場に挑戦する「若手生産者グループ」の海外での売り込み支援や、「遣欧カンキツ使節団」の派遣、「ニューヨーク花き見本市」での花き生産者によるプロモーションの実施等、自ら海外での市場開拓に取り組む「事業者の育成」に取り組んだ。

(2) 県産材の輸出促進（新次元プロジェクト推進室）

原木・製品ともに韓国・台湾・中国など東アジアを中心に、約2,800立方メートルを輸出するとともに、県産木造住宅においては、台湾と韓国、シンガポールのショールームを活用し、県産材の魅力を発信するとともに、大工等の木造建築技術の伝承・人材交流を進め、海外需要の開拓に取り組んだ。

【参考】



平成29年12月13日～平成30年2月27日
マキシム「徳島冬の食プロモーション」, 香港



平成29年10月16日
「とくしま食材サロン会」, フランス



平成29年10月7日～11日
「ANUGA2017」, ドイツ



平成29年11月10日～19日
「Japan Fair 2017」, シンガポール



平成30年2月18日～22日
「ガルフード2018」, UAE



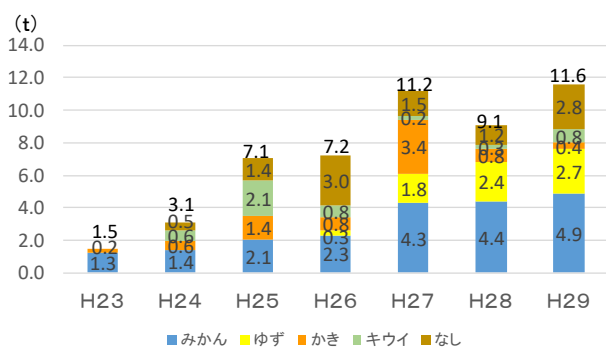
平成29年9月1日～4日
「なしフェア」, ベトナム

輸出状況

(平成30年3月末現在)

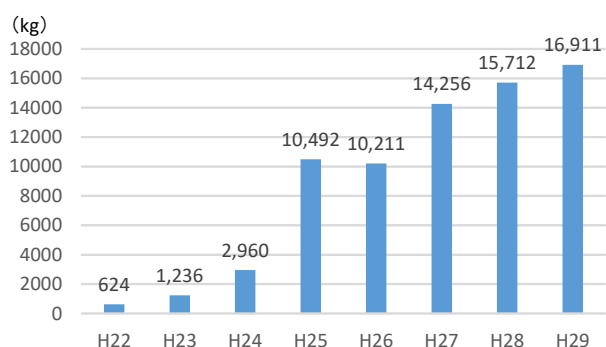
| 国名 | 商品 |
|--------|---|
| 香港 | なると金時, みかん, いちご, 愛宕柿, キウイ, なし, すだち, 米, 阿波尾鶏, 卵等 |
| 台湾 | なると金時, 春にんじん, ゆず, いちご, 米等 |
| シンガポール | なると金時, いちご, トマト, コマツナ, 米等 |
| 中国 | シリヤケイカ等 |
| タイ | なると金時, いろどり等 |
| ベトナム | 米, 阿波尾鶏, なし等 |
| マレーシア | なると金時, なし, トマト, 桃, カリフラワー等 |
| フランス | ゆず, みかん, はっさく, すだち, 米等 |
| アメリカ | 生しいたけ, シンビジウム, バラ, 米等 |

果実輸出量 (品目別)



出典：県調査

阿波尾鶏の輸出実績 (香港向け)



出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|----------------------|----|-----------|-----------|-----------|
| 農林水産物等輸出金額 | 億円 | 6.1 | 16 | 11.3 |
| 県産米輸出数量【再掲】 | t | 60 | 80 | 79 |
| 「とくしまブランド」輸出品目数 | 品目 | 21 | 40 | 35 |
| 「とくしまブランド」輸出相手先国・地域数 | か国 | 13 | 22 | 18 |
| 「とくしまブランド海外協力店」数 | 店舗 | 10 | 14 | 12 |
| ハラル認証商品・サービス数 | 商品 | 43 | 65 | 147 |
| 県産材の海外輸出量【再掲】 | m3 | 5,979 | 13,500 | 2,825 |
| 県産木材住宅の輸出戸数【再掲】 | 戸 | 2 | 70 | 9 |

1 農業生産基盤の整備及び保全

【主な取組】

(1) 国営総合農地防災事業の促進（生産基盤課）

吉野川や那賀川の下流域において良質な農業用水を安定的・効率的に供給するため、国営総合農地防災事業を推進した。

(2) 農業生産基盤整備の推進（生産基盤課）

新鮮で高品質な「とくしまブランド」農産物の産地化や増産などにより、一層の収益性の高い農業経営を実現するため、農地の大区画化や汎用化、農業用水のパイプライン化など地域の実情に応じたきめ細やかな生産基盤の整備を行った。

(3) 基幹的水利施設の長寿命化（生産基盤課）

老朽化した基幹的水利施設の保全を図るため、機能保全計画を作成するとともに、施設の長寿命化対策を推進した。

(4) 基幹農道の整備推進（生産基盤課）

農業生産や農産物流通の合理化、農村地域の生活環境の改善及び災害時の集落の孤立化を防ぐ緊急輸送路の補完を目的として、基幹農道整備を推進した。

(5) 担い手への農地集積（経営推進課）

Ⅱ－１を参照

【参考】



幹線水路（那賀川地区）



ライニングされた幹線用水路
（麻名用水地区）



大区画化されたほ場（長生西部地区）

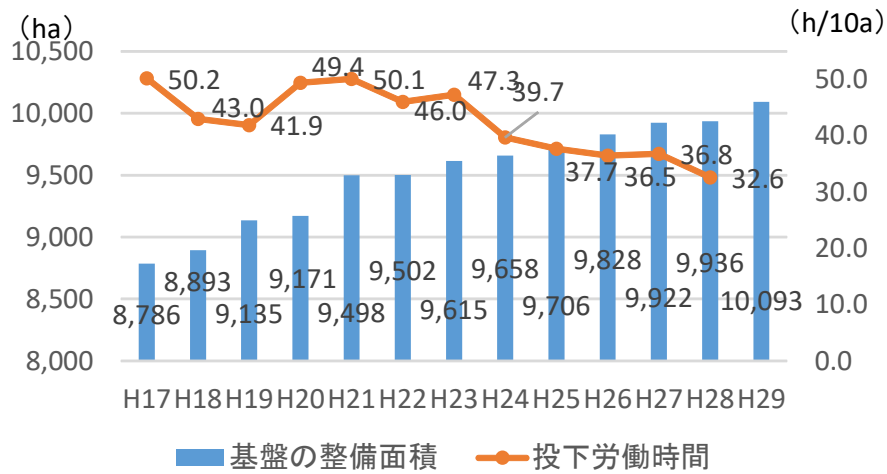


末端給水栓の整備



整備された基幹農道

農業基盤の整備面積と投下労働時間（米）



出典：農林水産省「農業経営統計調査」
県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--|----|-----------|-------------|-----------|
| 国営総合農地防災事業による基幹用水路の整備延長（累計） | km | 69 | 81 | 73 |
| 「農地中間管理機構」等を活用した農地集積面積（累計）（うち新規就農者300ha） | ha | 242 (64) | 3,000 (300) | 776 (137) |
| 耕作放棄地解消面積（累計） | ha | 656 | 900 | 910 |
| 基幹農道の整備延長（累計） | km | 35 | 38 | 36 |
| ほ場の整備面積（累計） | ha | 6,839 | 6,990 | 6,862 |
| 基盤の整備面積（累計） | ha | 9,922 | 11,000 | 10,093 |
| 老朽化対策に着手した基幹的水利施設数（累計） | 施設 | 28 | 60 | 36 |
| 耕作放棄地を活用した放牧実施箇所（累計） | 箇所 | 47 | 48 | 49 |

2 林業生産基盤の整備及び保全

【主な取組】

(1) 林内路網の整備（新次元プロジェクト推進室，森林整備課）

高性能林業機械の効率的な稼働による林業生産性の向上を図るため，基幹となる林道等に加え，林業専用道，森林作業道を有効に組み合わせた複合的な林内路網の整備を推進した。

(2) 間伐等施業の集約化（林業戦略課，新次元プロジェクト推進室）

森林境界の明確化事業を実施し，所有者界を明確にすることで，適正な森林管理を促進するとともに，効率的で持続的な森林経営を行う仕組みを確立するため，森林経営計画の策定を推進した。

(3) 保安林制度を活用した公的管理の推進（森林整備課）

水源のかん養や土砂災害の防備など公益的機能を発揮させる保安林の指定を進め，治山事業などを通じて機能の維持増進を図った。

(4) 森林の適切な管理と保全（森林整備課）

「徳島県豊かな森林を守る条例」に基づく第一種森林管理重点地域（とくしま県版保安林）の指定を進めるとともに，無秩序な開発の防止など森林の適正管理に努めた。

(5) 適切な森林整備の推進（新次元プロジェクト推進室）

国補事業「森林環境保全整備事業」を活用し，間伐や抜き^き伐りを進め，下層植生を増やし，長伐期林・複層林・針広混交林へ誘導するとともに，広葉樹の植栽や保育を行う多様な森林づくりを促進した。

(6) とくしま協働の森づくり事業の展開（林業戦略課）

二酸化炭素の排出量を，森林の整備等により増加した吸収量で埋め合わせる「カーボン・オフセット」の考え方を導入し，企業や個人からの寄附金を活用して森づくりを行う本県独自の取組を推進した。

(7) 林道プラットフォームの利用推進（森林整備課）

多様化する林道利用者のニーズにワンストップで応えるため，「とくしま林道ナビ」の掲載情報を充実させるとともに，市町村との連携によるPRイベントを開催するなど，更なる利用促進に努めた。

【参考】



林内路網整備



森林境界確認作業

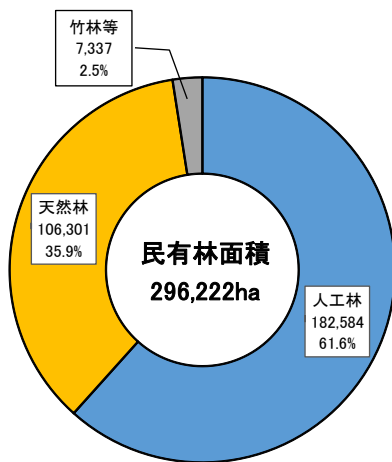


とくしま協働の森づくり

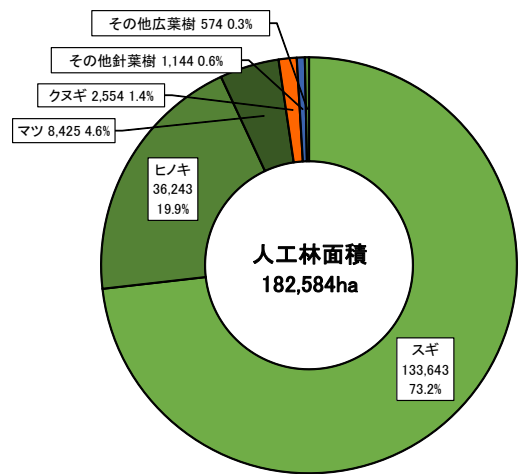


「とくしま林道ナビ」画面とPRイベント

森林面積の構成比
(計画対象民有林：平成28年度)

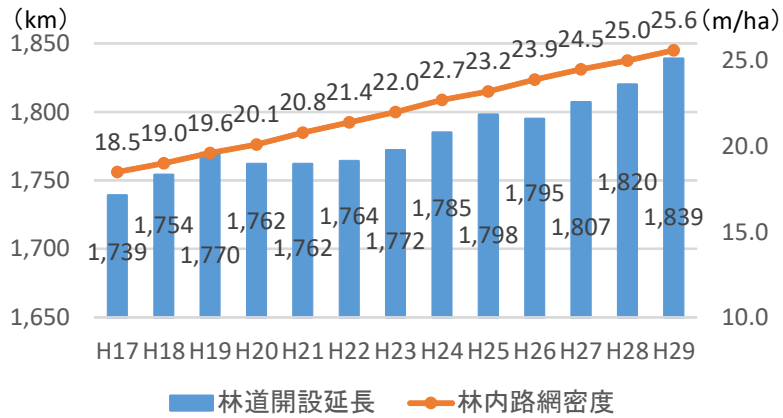


人工林樹種別面積
(計画対象民有林：平成28年度)



出典：徳島県「平成29年度みどりの要覧」

林道開設延長と林内路網密度



出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-----------------------|----|-----------|-----------|-----------|
| 林内路網開設延長 (累計) | km | 7,242 | 7,950 | 7,567 |
| 森林境界明確化の実施率 (累計) | % | 40 | 54 | 45 |
| 保安林指定面積 (民有林) (累計) | ha | 97,517 | 98,500 | 97,634 |
| 「とくしま県版保安林」の指定面積 (累計) | ha | 170 | 400 | 265 |
| 森林経営計画認定面積 (累計) | ha | 24,456 | 66,000 | 49,016 |
| 「公的管理森林」面積の拡大 (累計) | ha | 4,094 | 9,150 | 6,152 |

3 漁業生産基盤の整備及び保全

【主な取組】

(1) 水産基盤整備の推進（生産基盤課）

① 地域水産物供給基盤の整備

水産物の安定供給や漁業地域の活性化を図るため、漁港施設を整備した。

② 水産物供給基盤の機能保全

管理を体系的に捉えた計画的な取組により漁港施設の長寿命化を図りつつ、更新コストの平準化及び縮減を図った。

また、生産拠点漁港においては、漁港施設の耐震及び耐津波強化対策について検討した。

(2) 藻場造成や掃海による漁場整備の推進（生産基盤課）

① 藻場の造成

沿岸域の漁業資源を維持及び増大させるため、産卵場や幼稚魚の育成場として重要な役割を果たす藻場の造成を、海部地域2地区で実施した。

② 浮魚礁の設置

カツオ・マグロなど、回遊魚が水面や水中の構造物に集まり、滞留する性質を利用して、効率的に漁獲するため、中層型浮魚礁を設置した。

③ 掃海による漁場環境保全の取組

河川などから流入したゴミ等の堆積によって著しく漁場機能が低下している海域において、堆積物を除去し、漁場機能の回復と漁場環境の保全に取り組んだ。

【参考】



漁港整備（牟岐漁港）



漁港整備（栗津漁港）



藻場の造成



中層型浮魚礁の設置



海岸清掃活動

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-------------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 老朽化対策に着手した漁港海岸・漁港施設（岸壁等）数（累計） | 箇所 | 4 | 17 | 11 |
| 掃海実施件数 | 件 | 4 | 7 | 7 |
| 藻場造成箇所数（累計）【再掲】 | 箇所 | 18 | 28 | 21 |

4 南海トラフ・直下型地震への対応

【主な取組】

(1) 漁業版BCPの推進（水産振興課）

南海トラフ巨大地震等による大津波発生後、漁業者の生命の確保を最優先にいち早く漁業を復興させることを目的として策定した「県漁業版BCP」に基づく避難訓練を行ったほか、漁協版BCPの策定を支援した。

(2) 農業版BCPの実践力の向上（農山漁村振興課）

農地を速やかに復旧し早期に営農再開が図られるよう、海陽町で土地改良区、農協等を対象に農業版BCPの内容や除塩作業の手順についての説明会を開催した。

また、農業版BCPの実践力の向上を図るため、中央構造線エリアの土地改良区（1箇所）に対し、BCPの策定や情報伝達訓練の開催を支援した。

(3) 漁港海岸施設等の整備推進（生産基盤課）

漁村で暮らす人々の生命と財産を守り、南海トラフ巨大地震等に備え、被害を最小限に抑えるため、椿泊漁港海岸などにおいて海岸保全施設を整備するとともに、牟岐漁港では防波堤を整備した。

(4) 地籍調査事業の促進（農山漁村振興課）

津波などによる被害が発生した場合の早期復旧・復興及び公共事業の円滑な実施に資するため、防災・減災対策関連の「重点エリア」を定め、地籍調査の促進を図った。

(5) 農業施設等の整備・保全（生産基盤課，森林整備課）

① 土地改良施設の耐震化施設の推進

地震時の揺れや津波により被害を受ける可能性のある土地改良施設の対策として、緊急性・重要度の高いものから順次耐震診断を行い、耐震工事を推進した。

② 農業用ため池の整備の推進

ため池決壊による周辺の農地や宅地被害の未然防止を図るため、老朽化した農業用ため池の整備を推進した。

③ 農業用ため池のハザードマップ作成の推進

ため池の決壊による被害から地域住民の生命を守るため、市町村によるハザードマップの作成への取組み支援した。

④ 陸閘等の自動化・閉鎖の推進

津波等による被害から県民の生命・財産を守るため、陸閘等の自動化や統廃合や常時閉鎖を推進した。

【参考】



緊急輸送路を補完する農道



土地改良区が行う情報伝達訓練

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 漁港・漁港海岸の地震・津波対策の実施数（累計） | 箇所 | 4 | 13 | 9 |
| 「漁村防災・減災力向上計画」の策定箇所数（累計） | 箇所 | 4 | 9 | 4 |
| 漁村における津波避難施設等整備箇所数（累計） | 箇所 | 2 | 7 | 5 |
| 土地改良施設の耐震化施設数（累計） | 施設 | 3 | 6 | 4 |
| 農業用ため池整備箇所数（累計） | 箇所 | 4 | 8 | 4 |
| ハザードマップを作成した農業用ため池数（累計） | 箇所 | 80 | 120 | 135 |
| 緊急輸送道路を補完する農林道の整備延長（累計） | km | 20 | 27 | 24 |
| 地籍調査事業の進捗率 | % | 35 | 42 | 37 |
| 「農業版BCP」実地訓練等参加者数（累計） | 人 | 247 | 700 | 478 |
| 「漁協版BCP」の作成数（累計） | 件 | 9 | 20 | 14 |
| 陸こう等の自動化・閉鎖率 | % | 43 | 48 | 45 |

5 自然災害等への対応

【主な取組】

(1) 土砂災害の未然防止（生産基盤課，森林整備課）

土砂災害をはじめとする自然災害から農山村で暮らす人々の生命及び財産を守るため，治山施設整備や森林整備を計画的に実施するとともに，市町村や「山地防災ヘルパー」と連携し，危険箇所の調査・点検パトロールを行うなど，ハード・ソフトの両面から防災・減災対策に取り組んだ。

(2) 農業用ため池の整備の推進（生産基盤課）

Ⅳ－４を参照

(3) 農業用ため池のハザードマップ作成の推進（生産基盤課）

Ⅳ－４を参照

(4) 流木対策の推進（森林整備課）

流木被害の軽減対策として，緊急点検の結果に基づき，流木の発生原因となる「溪流内」の不安定な樹木の除去に取り組んだ。

(5) 倒木対策の推進（新次元プロジェクト推進室）

大雪等気象災害によるライフライン等の途絶を未然に防ぐため，緊急輸送道路や生命線道路などの重点路線において，倒木となる恐れがある樹木の「事前伐採」に取り組んだ。

(6) 家畜伝染病の発生予防・まん延防止に向けた危機管理体制の強化（畜産振興課）

Ⅱ－７を参照

【参考】



山地災害から人家・公共施設等を保全



山地災害危険地区のパトロール



平成29年度山地防災ヘルパー認定式



家畜伝染病防疫演習（殺処分作業）



家畜伝染病防疫演習（消毒作業）

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-------------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 土砂災害の危険性のある人家の保全数（累計） | 戸 | 2,261 | 2,500 | 2,379 |
| 山地災害の危険性が高い箇所の調査・点検パトロール実施箇所数 | 箇所 | 208 | 1,108 | 670 |
| ハザードマップを作成した農業用ため池数（累計）【再掲】 | 箇所 | 80 | 120 | 135 |
| 農業用ため池整備箇所数（累計）【再掲】 | 箇所 | 4 | 8 | 4 |
| 山地防災ヘルパーの認定者数（累計） | 人 | 137 | 178 | 166 |

1 多様な主体による協働活動と農林水産業への参画

【主な取組】

(1) 自然環境の保全（農山漁村振興課）

県内の3小学校において、地域住民とともに「環境学習」として生きもの調査等を共同実施し、田んぼや農業用施設の持つ多面的機能への理解を深めた。

(2) 農業系大学生等によるインターンシップの推進（経営推進課）

I-1を参照

(3) 県民参加の森づくりの促進（林業戦略課）

「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」や「緑の募金」等を活用し、NPOや森林ボランティア団体などによる「県民参加型」の森づくり活動を支援した。

(4) 県民総ぐるみでの森林づくりの推進（林業戦略課）

管理放棄等により公益的機能の低下が危惧される私有林において、県等公的機関による取得や「とくしま森林づくり推進機構」による管理受託などの「公有林化」を推進するとともに、「協働の森林づくり事業」に参画する企業数の拡大や、大学等の体験林「フォレストキャンパス」の整備など、県民総ぐるみでの森林づくりの推進に努めた。

(5) 農業者と地域住民等との「地域協働活動」の支援（農山漁村振興課）

地域住民や自治会、PTA、NPOなどの多様な主体が参画した協働活動により、地域の農地や農業用水などの地域資源を保全する活動や、農業用水路などの補修・更新による施設の長寿命化に取り組む地域を支援した。

また、農山漁村の地域リーダーである「ふるさと水と土指導員」の養成や活動の促進、「農山漁村（ふるさと）協働パートナー」と「農山漁村の地域住民」との協働活動を促進することにより、農山漁村地域の保全・活性化に努めた。

【参考】



田んぼの学校_出前授業
(国府小学校)



田んぼの学校_魚類調査
(国府小学校)



田んぼの学校_魚類調査
(海部小学校)



インターンシップ



県民参加型の森づくり活動



農山漁村（ふるさと）協働パートナー協定式



とくしま農山漁村応援し隊 作業風景
(寒茶の収穫作業)

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-------------------------------|--------|--------------|--------------|--------------|
| 自然環境調査に基づく事業計画策定地区数（累計） | 地区 | 54 | 64 | 61 |
| 田んぼの学校等の環境学習の開催日数（累計） | 日 | 16 | 40 | 22 |
| 農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協定数（累計） | 協定 | 52 | 67 | 63 |
| 「ふるさと水と土指導員」の認定数（累計） | 人 | 51 | 56 | 53 |
| カーボン・オフセットに基づく森づくり企業数・団体数（累計） | 企業・団体数 | 123 | 150 | 137 |
| 森林吸収量取引制度認証面積（累計） | ha | 1,601 | 3,800 | 2,433 |
| 県民参加による森づくり参加者数（累計） | 人 | 508 | 3,000 | 2,604 |
| 「県民憩いの森（仮称）」の創設（累計） | 箇所 | - | 10 | 7 |
| 個人寄附金による森づくり箇所数（累計） | 箇所 | 15 | 20 | 23 |

2 都市農村交流と移住・定住の促進

【主な取組】

(1) グリーン（ブルー）ツーリズムの推進（ふるさと創造室）

農山漁村を訪れる方々に農業体験活動を指導するグリーン（ブルー）・ツーリズムインストラクターの育成や農林漁家民宿の開業支援により、9軒の農林漁家民宿が開業した。

また、「にし阿波の傾斜地農耕システム」の世界農業遺産認定を契機とするインバウンドや体験学習民泊利用者の増大に対応するため、外国人観光客への対応力向上や体験メニューの充実に向けた研修会を実施するとともに、地域や関係機関とのネットワーク化による情報の共有化を図った。

(2) 農業者と都市部住民との「地域協働活動」の支援（農山漁村振興課）

地域住民や農山漁村（ふるさと）協働パートナーなど、県民との協働による活動を通じて交流促進を図った。

【参考】

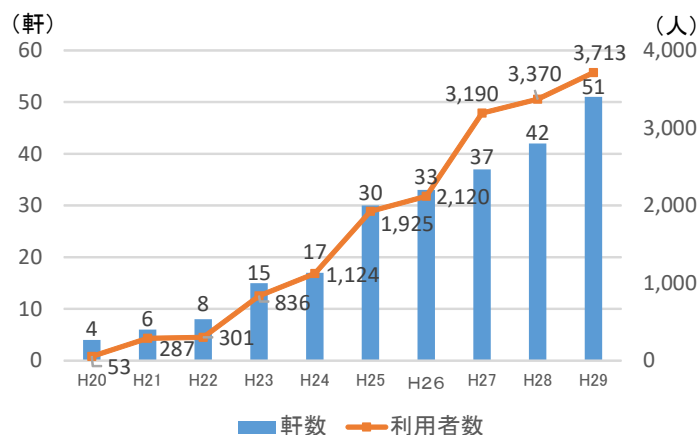


農林漁家民宿



とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊

とくしま農林漁家民宿数及び利用者数の推移



出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|---------------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| とくしま農林漁家民宿数（累計） | 軒 | 37 | 47 | 51 |
| とくしま農林漁家民宿数等の体験宿泊者数（累計） | 人 | 3,190 | 3,200 | 3,713 |
| 体験交流施設の利用者数 | 人 | 17,085 | 18,800 | 30,968 |
| 農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協定数（累計）【再掲】 | 協定 | 52 | 67 | 63 |
| 農山漁村（ふるさと）協働パートナーの参加人数（累計） | 人 | 1,932 | 3,400 | 3,133 |
| とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業による活動日数（累計） | 日 | 182 | 330 | 257 |

3 中山間地域等への支援

【主な取組】

(1) 多面的機能の維持・発揮（農山漁村振興課，ふるさと創造室）

「日本型直接支払制度」を活用し，多面的機能の維持・保全や耕作放棄地の発生防止など，集落ぐるみで地域農業を支える取組を支援した。

(2) 中山間地域等への支援（農山漁村振興課）

「中山間地域総合整備事業」により，中山間地域の活性化を図るため，農業用排水路，農道，集落道などを整備した。

(3) 未来ある農山漁村づくり（農山漁村振興課）

地域資源を活用した地域の活性化を図るため，2市1町3地区でワークショップを開催し，住民自らが考え行動する「魅力創生ビジョン」づくりを推進するとともに，ビジョン策定済の地区については棚田の保全・活用など，ビジョンの早期実現に向けた実践活動を支援した。

(4) 林道プラットフォームの利用推進（森林整備課）

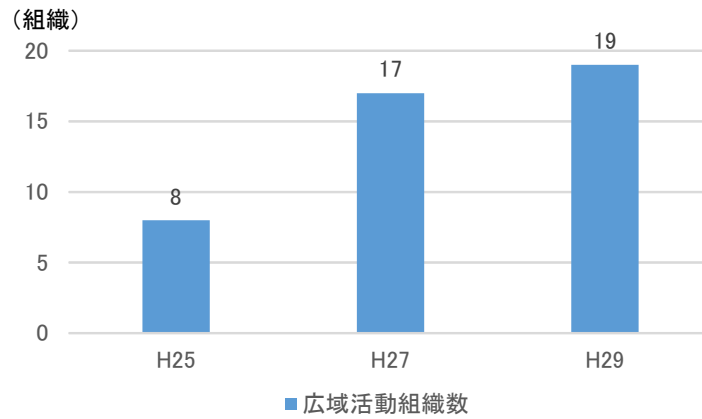
Ⅱ－４を参照

【参考】



未来ある農山村づくり
（ワークショップ）

多面的機能支払制度の取組状況



【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|--------------------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成地区数 | 地区 | 3 | 18 | 9 |
| 多面的機能の維持・発揮に取り組んだ広域連携組織数 | 組織 | 17 | 22 | 19 |
| 多面的機能の維持・発揮のための共同活動実施地区面積が耕地面積に占める割合 | % | 30 | 30 | 43 |
| 中山間地域総合整備事業の実施地区数 | 地区 | 35 | 39 | 37 |
| 「阿波地美栄」取扱店舗数 | 店舗 | 23 | 42 | 32 |
| 「林道プラットフォーム」の利用推進（林道登載路線数） | 路線 | 16 | 42 | 27 |

4 鳥獣による被害の防止

【主な取組】

(1) 鳥獣被害対策，未利用資源の有効活用（ふるさと創造室）

① 「徳島県鳥獣被害防止センター」の運営

「徳島県鳥獣被害防止センター」を中心に，集落ぐるみで取り組む防護対策，野生鳥獣の適正管理と捕獲対策，狩猟者・被害対策の担い手確保対策及び地域資源としての有効活用対策を推進した。

② 「鳥獣被害情報システム」の運用

鳥獣の被害や防護に関するデータを一元的に管理する「鳥獣被害情報システム」を活用し，鳥獣被害対策の専門員による防護対策の指導を行った。

③ 「鳥獣被害対策指導員」の養成

農業者や地域住民に対する直接指導を担う鳥獣被害対策指導員の養成研修を実施し，新たに14名の指導員を養成した。

④ モンキードッグの導入

サル対策として，追い払いに効果のあるモンキードッグの計画的な導入を進め，2町で3頭の導入を図るとともに，生息動向等の把握に努め，効果的な被害対策の推進に努めた。

⑤ 「阿波地美栄」の販路拡大

「阿波地美栄」を新たな徳島の観光資源として育成するため，「阿波地美栄フェスタ」開催をはじめ，県内外のイベントへの出展，メディアを利用した情報発信により，観光客誘客やインバウンドの取り込みを促進した。

また，解体処理講習会の実施により，処理施設における人材を育成し，供給体制の強化を図るとともに，新たな加工品開発やシカ皮の利活用のための支援を行った。

(2) カワウ食害防止対策（水産振興課）

関係漁協が実施する追い払いや駆除等のカワウ対策の取組を支援し，内水面における水産資源の保護を図った。

【参考】



ジビエPRイベント



地美栄（ジビエ）料理

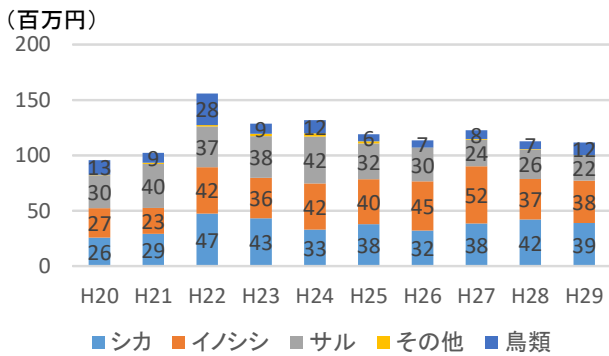


モデル集落の育成（集落点検）



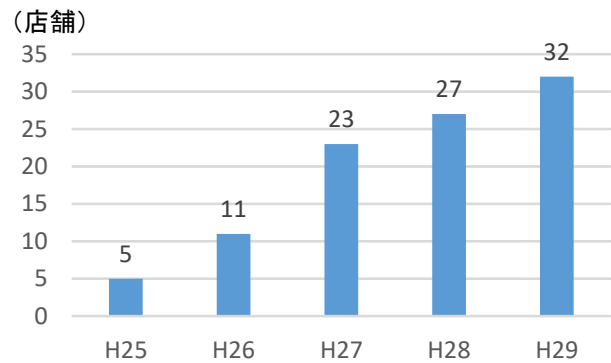
カワウ追い払いのためのテグス張り

野生鳥獣による農作物被害金額



出典：県調査

「阿波地美栄」取扱店舗数（累計）



出典：県調査

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-----------------------------|-----|-----------|-------------|-----------|
| 鳥獣被害対策実施隊が捕獲活動に従事する市町村数（累計） | 市町村 | 10 | 19 | 14 |
| ニホンジカ捕獲頭数（※目標値はH29年） | 頭 | 12,582 | 13,800 ※ | 12,752 |
| イノシシ捕獲頭数（※目標値はH29年） | 頭 | 8,794 | 6,000 ※ | 7,488 |
| ニホンジカの食肉処理頭数 | 頭 | 375 | 565 | 441 |
| 「阿波地美栄」取扱店舗数【再掲】 | 店舗 | 23 | 42 | 32 |
| 「鳥獣被害情報システム」を活用した集落数 | 集落 | - | 35 | 19 |
| 鳥獣被害対策指導員の養成人数 | 人 | 95 | 135 | 126 |
| 集落等で取り組んだ防止施設等の整備件数（累計） | 件 | 1,327 | 1,700 | 1,568 |
| 野生鳥獣による「被害ゼロ集落」のモデル育成数 | 集落 | - | 63 | 7 |
| 野生鳥獣による農作物被害額 | 百万円 | 123 | 92 | 111 |
| モンキー犬の育成頭数 | 頭 | 50 | 75 | 59 |
| 新たなカワウ被害防止対策の実施箇所数（累計） | 箇所 | 2 | 12 | 6 |

5 地球環境の保全への貢献

【主な取組】

(1) 自然エネルギーの導入（農山漁村振興課）

農産物価格の低迷や燃料の高騰などにより、農家経営が厳しい状況の中、農業用施設等の維持管理費節減を図るため、土地改良区が実施する太陽光発電施設の整備を支援した。

(2) 森林整備の推進（新次元プロジェクト推進室）

森林の持つ多様な機能の維持・増進を図るため、間伐や植栽などの森林整備を実施し、針広混交林・複層林への誘導、広葉樹林の整備を推進した。

(3) 木質バイオマスの利用促進（新次元プロジェクト推進室）

Ⅱ－４を参照

(4) 藻場の造成や漁場・海岸の保全（生産基盤課）

Ⅱ－５，Ⅳ－３を参照

(5) 使用済み農業用フィルム適正処理の推進（もうかるブランド推進課）

農業用廃プラスチックの安定かつ持続可能な県下統一処理と再資源化体制を確立するため、徳島県農業用廃プラスチック適正処理対策協議会の運営を支援するとともに、農業者の適正処理に関する意識の向上を図った。

(6) 畜産経営環境保全の推進（畜産振興課）

Ⅱ－３を参照

【参考】



太陽光発電施設（徳島市川内町）



太陽光発電施設（徳島市川内町）

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|-------------------------|-----|--------------|--------------|--------------|
| 補助事業を活用した自然エネルギーの導入地区数 | 地区 | 10 | 14 | 11 |
| 漁業協調型・自然エネルギーの導入 | - | データ収集 | 推進 | 調査・ 検討 |
| 省エネ・低コスト化施設の導入件数（累計） | 件 | 20 | 25 | 22 |
| バイオマス利活用モデル地区数（累計） | 地区 | 32 | 36 | 37 |
| 使用済み農業用フィルム（各種ビニール類）回収率 | % | 97.4 | 100 | 99.1 |
| 堆肥の特殊肥料への届出件数 | 件 | 169 | 184 | 173 |
| 藻場造成箇所数（累計）【再掲】 | 箇所 | 18 | 28 | 21 |
| 間伐実施面積（累計） | 千ha | 64 | 78 | 69 |
| 人工造林面積【再掲】 | ha | 146 | 300 | 190 |
| 針広混交林・複層林の誘導面積（累計） | ha | 22,367 | 26,000 | 24,407 |
| 広葉樹林の整備面積（累計） | ha | 1,113 | 1,500 | 1,466 |

6 地球温暖化への対応

【主な取組】

- (1) サイエンスゾーンにおける気候変動に適応した技術の開発及び普及（経営推進課）
夏秋期の異常高温や集中豪雨など温暖化に起因すると考えられる気候変動に適応し、農林水産物の高品質化及び安定生産につなげるため、米の登熟期の高温による品質低下が少ない良食味品種「あきさかり」や多発傾向にある夏台風の被害を軽減する県育成早生品種レンコン「阿波白秀」の導入促進、高水温環境に強く、高品質で高収量なワカメ新品種の開発など、環境変化に適応できる品種の生産現場への導入や新たな品種開発などの取り組みを行った。
- (2) 農業用施設の整備（生産基盤課）
地球温暖化に伴い激しさを増す干ばつや大雨による農作物被害の軽減に資する、老朽ため池の改修や、用排水機場及び用排水路の整備・長寿命化を行った。
- (3) 漁港施設の嵩上げや粘り強い構造を持つ海岸保全施設の整備（生産基盤課）
Ⅳ－3，4を参照
- (4) 保安林制度を活用した公的管理と治山施設整備の推進（森林整備課）
水源のかん養や土砂災害の防備など公益的機能を発揮させる保安林の指定を進めるとともに、治山施設の整備や森林整備の計画的な実施により機能の維持増進に取り組んだ。
- (5) 公有林化や森林境界明確化の推進（林業戦略課）
地球温暖化防止に貢献する森林管理を適正に行うため、公有林化や森林境界の明確化等を推進した。

【参考】



れんこん新品種「阿波白秀」



治山施設

【達成状況】

| 行動目標 | 単位 | 基準値 (H27) | 目標値 (H32) | 実績値 (H29) |
|------------------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 「徳島発・次世代技術」創造数（累計）【再掲】 | 件 | 50 | 75 | 60 |
| 新品種の開発数（累計）【再掲】 | 件 | 13 | 17 | 14 |
| 保安林指定面積（民有林）（累計）【再掲】 | ha | 97,517 | 98,500 | 97,634 |
| 「公的管理森林」面積の拡大（累計）【再掲】 | ha | 4,094 | 9,150 | 6,152 |
| 森林境界明確化の実施率（累計）【再掲】 | % | 40 | 54 | 45 |